平成二十七年度　第百十六回

京都大学書道部

展

日時　平成二十七年　十二月十九日・二十日
　　十時～十七時（二十日は受付十六時まで）

場所　建仁寺　西来院・禅居庵

―巻頭に寄せて―

本日はお忙しい中、第 116 回京都大学書道部冬樟展にご来場いただきまして誠にありがとうございます。

今年も早いもので、クリスマスを控え、街がきらびやかな装飾で飾られる時期になりました。今年で 116 回目を迎える本書展も、日々練習を積み重ねてきた部員たちの努力が詰まった数々の素晴らしい作品で色付きました。

一口に“書道”といっても、その形は様々で、美しくのびやかなものもあれば、荒々しく情熱的なものもございます。また、一人で創り上げる作品のみならず、幾人かの表現がまとまって一つの作品となっているものもあります。今書展でも会場を彩る作品一つ一つの個性を是非お楽しみください。

最後に、今回こうして書展を開催できるのも多くの方々のご協力があったおかげです。日頃からご指導いただいている顧問の阿辻哲次先生や技術指導の寺本蒼玄先生をはじめ、関係者の皆様には心より御礼を申し上げます。

平成 27 年 12 月吉日

京都大学書道部　部長　矢野凱己

漢字と日本語

阿辻 哲次（京都大学大学院 人間・環境学研究科 教授）

若い人々はすでに知らないだろうが、かつての電報はカタカナだけで書かれており、その文章はほんとうに読みにくいものだった。その時代には誰でも知っていた有名な冗談に、「カネオクレタノム」と実家に打電したところ「ダレガクレタ　アマリノムナ」と返事が届いたという話がある。「金をくれた、飲む」と読んだ両親が、「誰がくれた、あまり飲むな」と返信したというわけだ。

カタカナだけで書かれた文章は、誤読される危険もあった。「キョウハイシャヘイッタ」は「今日は医者へ行った」とも、「今日歯医者へ行った」とも読めるが、漢字を使うことで誤読を完全にふせぐことができる。

ずいぶん前のことだが、そんな話をテレビ番組で話したところ、未知の方から電子メールが届いた。

その方のお父さんが若かった頃、東京から実家のある三重県伊勢市に帰省することになり、各駅停車で三重の「津」駅まで来たところ、所持金が底をついてしまった。困った彼は実家から送金してもらおうと思って「ツマデキタ　カネオクレ」と電報を打ったのだが、実家ではそれを「妻できた　金送れ」と読解し、驚いて多額の金を送金したというのだ。当事者には笑い事でなかったにちがいないが、電報ならではの誤読と、失礼ながら私は大笑いさせていただいた。

機械を使って日本語を書くのが当たり前になった。技術の進歩によって、日本語を記録する環境が大きく整備された。そしてここに展示されるのは近代科学文明の申し子として、幼少時から機械で文章を書いてきた世代の文字である。

文化とはいつの時代も、正と反のベクトルを内包し、数直線上を行きつ戻りつしながら進むものであることを、見ていただければ幸いである。

一本の筆

寺本 蒼玄（京都大学書道部 技術顧問）

皆さんは、同じ一本の筆で半紙から全ての作品まで書いてはいませんか？

ただ、使い易いとか、その筆しか持っていないのでその筆をずっと使っている。こんなことは無いでしょうか。

筆はさまざまな動物の毛が使われて作られています。同じ毛質の筆でも太さや長さにより書き味が異なります。一般的な筆として羊毫と兼毫筆がよく使われています。皆さんは最低でも、半紙用と作品用の二種類ぐらいの筆は使ってほしいですね。書道を習い始めた時に買った一本の筆は、良くも悪くも自分に合っていると思って使っていませんか。筆は同じ羊毛の筆で太さや長さが同じ物でも書き味が同じとは限りません。同時に作られた筆で多少異なります。又、紙の種類（滲み具合）や墨の濃淡により、適した筆を用いないと、作品表現がうまくできません。紙、墨、筆の三つの要素がうまく調和しないと良い作品にはなりません。例えば、よく滲む紙に淡墨で作品を書く場合、柔かい羊毛は書き難く適していません。又、濃墨で書くとしても、滲みが多い紙だとねばり強い濃墨だと筆が上手に動かすのは難しいですね。少し薄めてサラットすると爽やかな線を引くことが出来ます。

羊毛は中鋒だと柔かい線も鋭い線も引き易いですが、長鋒以上の長さになると毛の弾力が少なくなり操つり難くなります。筆を根元から一センチぐらいから四分の一ぐらいまで固めて使うと書き易くなります。毛の弾力を出し易くする為の工夫です。

皆さんも一本の筆に頼ること無く、色々な筆を試してみて、紙や墨との組合せを考え、良い作品を書いて下さい。

臨書と創作

○臨書

過去の優れた筆跡を手本として書くことです。

臨書は段階や態度によって三種類に分けられます。最初のステップは、古典の字形や用筆に迫ろうとする、「形臨」と呼ばれるものです。形をまねることは、その古典に迫る最も近い方法です。

形がある程度まねられるようになってくると、次は古典に漂う雰囲気や運筆のリズムなど、形以外の要素に重点をおいてとらえようとする「意臨」の段階に進むことができます。このような、形以外の要素をとらえようとする態度は、真筆が歴史の中で失われ、模写したものや拓本しか残っていないような古典を臨書する際に求められることがあります。

古典をよく学んだうえで、書くときはそれを見ないで書く方法を「背臨」、臨書を重ねた後、臨書から学び取った古典の特徴や表現方法などを生かして、その古典とは別の字句を書くことを「倣書」といいます。この態度は創作につながるステップとなります。

書のあらゆる作品は、このような過去の作品から学ぶことを基盤としています。書道における基本と呼べるものが、臨書なのです。

○創作

自らの創意工夫による書の表現をいいます。

自分が伝えたいこと、表現したいことを明確にして、それに合った素材（語句や詩文）や表現方法を選び、試行錯誤しながら、自分の主張や個性が表れた作品になることを目指します。

臨書によって古典から得られる様々な表現方法を用いることで、作品に味わいや深みを出すことが出来るようになります。

○法帖

芸術作品として残された個人の書を、石や木に刻して拓本をとり、臨書や鑑賞に便利なように帖仕立てにしたものです。

今回の冬樟展では、各臨書作品の右横に臨書した箇所の法帖を掲示して、皆様にご覧いただけるようにしています。

作品鑑賞の参考に、こちらも是非ご覧ください。

書体について



『篆書』
漢字のもっとも古い形で、現在使われている漢字のもとになった字体です。秦朝に小篆として統一されたものが一般的です。均一な太さの線が特徴です。



『隷書』
役人が複雑な字形だった篆書を早書きした際生まれた字体です。字形は横長で、時代が進むにつれ、線の終わりに独特な「波磔」がみられるようになります。



『楷書』
隷書からさらに記号化された、バランスの取れた字体です。その整った字形から、現在の漢字の基本とされています。



『行書』
隷書から発展した字体で、点画や線にしなやかさと変化がみられます。筆の速度や点画の流れが最も重視される書体といえます。



『草書』
隷書を早書きすることから発展しました。線の省略や筆順に変化があり、自由度の高い作品となります。文字から文字へと流れる「連綿」の美しさも魅力です。



『かな』
日本独特の表音文字です。草書の簡略化によって生まれました。漢字にはない流麗な筆致と同じ音を表す複数のかな、「変体仮名」による創意工夫が魅力です。



『調和体』
日本語の近代詩文や現代詩などを題材に、誰にでも親しみやすい書体で書いたものです。漢字かな交じりという日本語独自の特徴を生かした作品形態です。

作品一覧

技術顧問

寺本蒼玄　創作・『交善如蘭芝』・・・

上井晴仁　創作・『疾風怒濤』・・・

作品紹介

賛助作品

技術顧問　寺本蒼玄　先生



○西来院作品

『交善如蘭芝』　李調元

「善に交われば蘭芝の如し」

交遊の感化は丈である。明末清初の傅山の風で力強く豪快に流しました。

○禅居庵作品



『學且勤』　王應麟

「学び且勤む」

学ぶと共に努力する。明末何紹基の風に上品で力強くまとめました。

○西来院

1

稲葉由花利　四回生
臨書　行草　傅山『七言絶句軸』　二尺×八尺

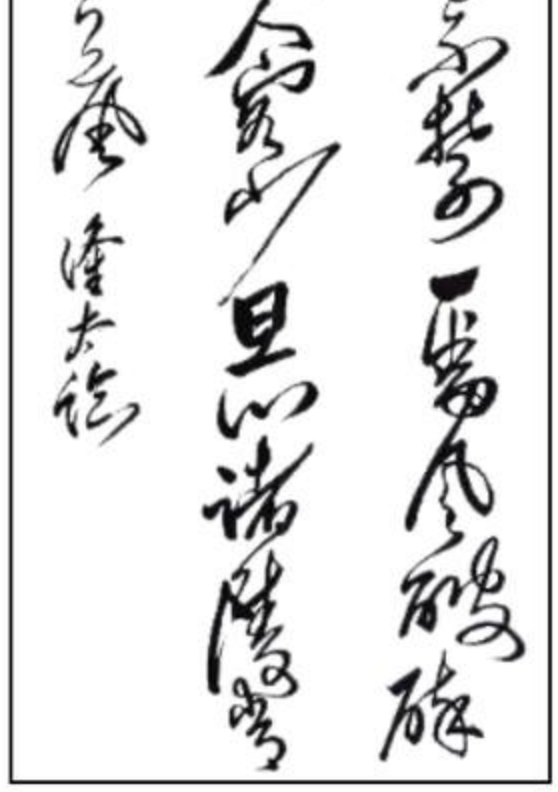


「穠粟男児寿也甘。残編枵腹不嫌貪。春秋左氏為胎息。書種于今不輩担。蓮宝読左氏伝已棄過。此書及班史。吾家世業也。小事勉之。無令有忝。」

私が三回生の初夏書展で先輩が出品されていた作品。その先輩がこの作品を立ったまま一気呵成に書き上げる姿を見てから、私は二八の作品を立つようになった。同じ作品を出品するに足り得ただろうか。

2

上西隆太　三回生
臨書　草書　黄道周『濟窄聞警有作』　二尺×六尺



「過此那堪遙　當年已不禁　一番風破碎　千倍艸浮沈　世即無南史　人客少旦心　諸陵爰火路　照髪動蕭森　黄道周」

綺麗な行間やうねる行など全体の雰囲気やリズムを再現しようと努めましたが、どうしても細部にばかり目が行ってしまいます。木を見て森を見ずになっていなければいいのですが。

3

岡本晴香　二回生
創作　近代詩文書　『椰子の実』　二尺×八尺

「名も知らぬ遠き島より流れ寄る椰子の実一つ故郷の岸を流れて波に幾月…」
書き手の実力が露呈してしまう、二八縦・三行書きの構成に敢えて挑みました。一番気を配ったのは、落筆の勢いと全体のリズム感です。書いても書いても、行の流れ・行同士の絡み・墨の潤滑・線の勢い・文字の大小など、課題が山のように出てきました。もっと精進しなければならないということを痛感しました。



4

岡本晴香　二回生
創作　近代詩文書・行書　『山月記』　二尺×八尺（53×70cm 三枚）

「才能の不足を暴露するかも知れないとの卑怯な危惧と刻苦を厭う怠惰とが己の凡てだった〈我為異物蓬茅下君已乗…〉時に残月光冷やかに白露は地に滋く…」
三枚で一作品という作品構成です。「こじんまりとまとまった作品」ではなく、「小さいながら大きく見せる作品」を目指してこのような作品構成にしました。自分で字書を引いて創作するのは難しかったですが、いい経験になりました。リズム感・大胆さ・迫力…いつか手に入れたいものです。手に入れられるよう精進します。



5

小林由佳　一回生
臨書　楷書　光明皇后『楽毅論』　二尺×八尺

「楽毅論夏侯泰初世人以樂毅不時抜莒卽墨爲劣是以敍而論之夫求…」
この楽毅論は、王羲之の書いた楽毅論を光明皇后が臨書したものです。細いながらも芯があり力強い線を表現しようとしました。ご批評よろしくお願いします。



6

疋田研一郎　三回生
創作　行書　『酒徳頌』　二尺×八尺

「有貴介公子、搢神處士、聞吾風聲、議其所以…」
前回のお札構想が割と好評だったので味を占めました。



7

藤田雄也　四回生

臨書　行草　傅山『橋南橋北七言詩軸』　二尺×八尺



「橋南橋北雪杈枒，青豆傾筐向酒家。忙過小亭吹石審，杏花如夢作梅花。」

「書は寧ろ拙なるも巧なるなかれ」と傅山は言ったそうだ。確かに傅山の作品には型にはまらない奔放さがあり、そういった所が彼の作品の魅力となっている。ただ実際に臨書してみると、どうしても巧く書こうとしてしまいがちでその言葉を実践することは難しかった。だがそのような中で少しでもその領域に近づけたらと思う。

8

三村祐貴子　二回生

臨書　行書　米芾『賀鑄帖』　二尺×八尺



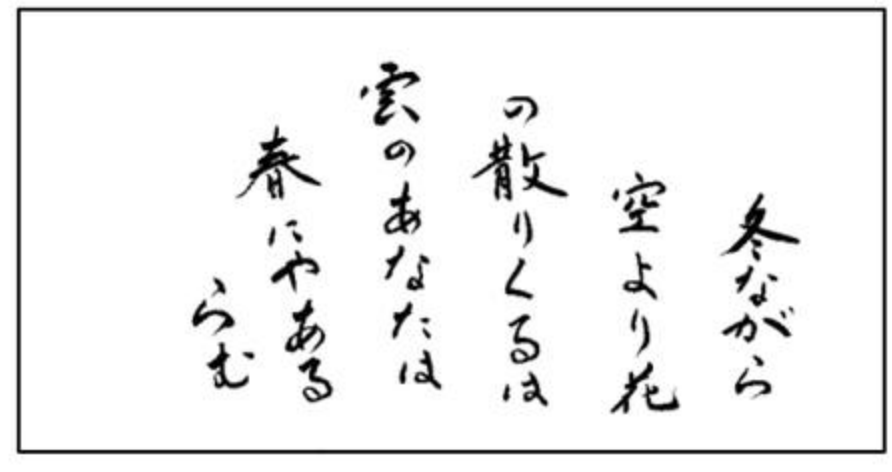
「芾再啓賀鑄能道行楽慰人意玉筆格十襲收秘何如兩足其好人生幾何各閟其欲即有意一介的可委者」

力強さと柔らかさ、この二つを両立させるのは難しかったですが、自分が書いたことのない書家の作品に挑戦するのは刺激的で、苦労しながらも楽しく制作することができました。

9

荒巻拓哉　三回生
創作　調和体　『冬ながら』　半切二分の一

「冬ながら空より花の散りくるは雲のあなたは春にやあるらむ」
初めて創作に挑戦しました。雪を花に見立てる昔の人の感性に感動しながら作品制作……とはいかず、創作の難しさに終始苦しめられていました(笑)



10

今村朱里　一回生
臨書　隷書　楊峴『臨西狭頌四屏』　半切

「三國清平詠歌懿徳瑞降豊稔民以貨植」
高校生の時一度書いて楽しかった隷書に挑戦しました。気軽に始めたものの逆筆や波磔にかなり苦戦し、地道に練習を重ねました。その時指導していただいた先輩に深く感謝すると共に、書道部の温かさを改めて実感する今日この頃です。



11

稲葉由花利　四回生
創作　楷行篆隷　『仁義礼智』　半切四分の三　四連

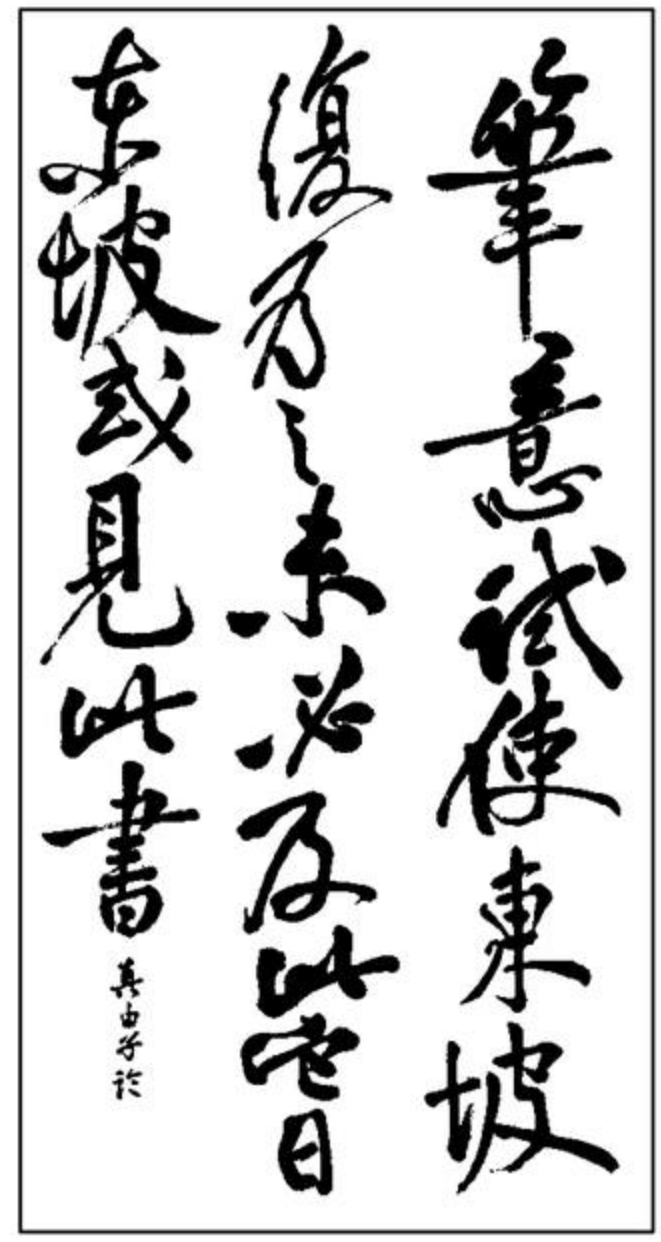
「仁　巧言令色。鮮矣仁。……
礼　躬自厚而薄責於人。則遠怨矣。……
義　見義不爲。無勇也。……
智　學而時習之。不亦説乎。……」
卒業制作では四書体全ての創作をしようと心に決めていた。私の四年間の集大成としてこの作品を出品できることはこの上無い歓びです。パンフレットの作品は過程です、ぜひ実際の作品をご覧ください。大枚叩いて屏風仕立てに致しました。



12

浦川真由子　一回生
臨書　行書　蘇軾『黄庭堅跋』　全紙

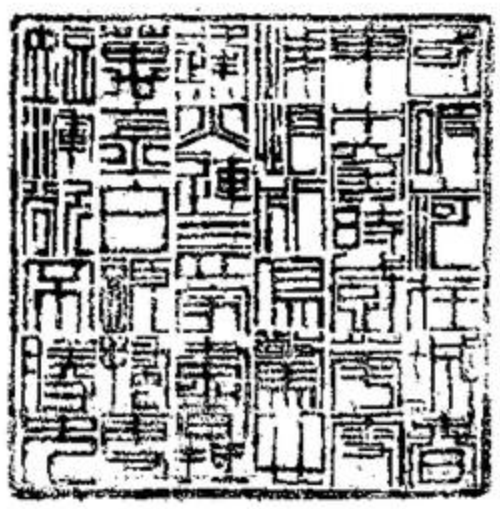
「筆意試使東坡…見此書」
大小バラバラの自由な書きぶりに面白そうだと思って書いてみたのですが、紙に収めるのが難しかったです。試行錯誤の結果、全紙という大きなサイズに挑戦することにしました。未熟な作品ですが、ご批評よろしくお願いします。



13

奥田祐司　二回生
創作　篆刻　『春望』　色紙

「国破山河在…」
これだけ狭い中に四十字刻すのは大変でしたが、こんなことはなかなかしないので良い経験になりました。



14

大泉陽輔　修士一回生
臨書　隷書　楊峴『五言對聯』　一尺×四尺　二連

「南山有高稜　北極見羅羽」
やっぱり最後は楊峴を。この書家この古典に出逢えたことに感謝しつつ卒部制作。



15

角谷遊野　三回生
創作　楷書　『書憤』　聯落

「早歳那知世事艱。中原北望気如山。樓船夜雪瓜洲渡。鐵馬秋風大散関。」
初の楷書創作です。力強さと繊細さを同時に表現しようとしました。これからはあまり細かいことは気にせず、楽しく書きたいと思います。



16

片野裕太　四回生
臨書　行草　篠崎小竹『夜坐』　半切

「夜深寒気烈人語四鄰無只有梅華在書窓月不孤」
日本人の書いた作品を臨書したいと思い探していたのですが、これは作品の構成がまずぱっと目に止まりました。それからどっしりとした力強さとすっと通った行の軸に惹かれました。詩の伝えるように、一人で凛と佇む風景を作品から伝えるところまでのレベルを目指して頑張ったつもりです。よろしくお願いします。



17

釜阪紘平　三回生
創作　『紅天狗茸』　半切

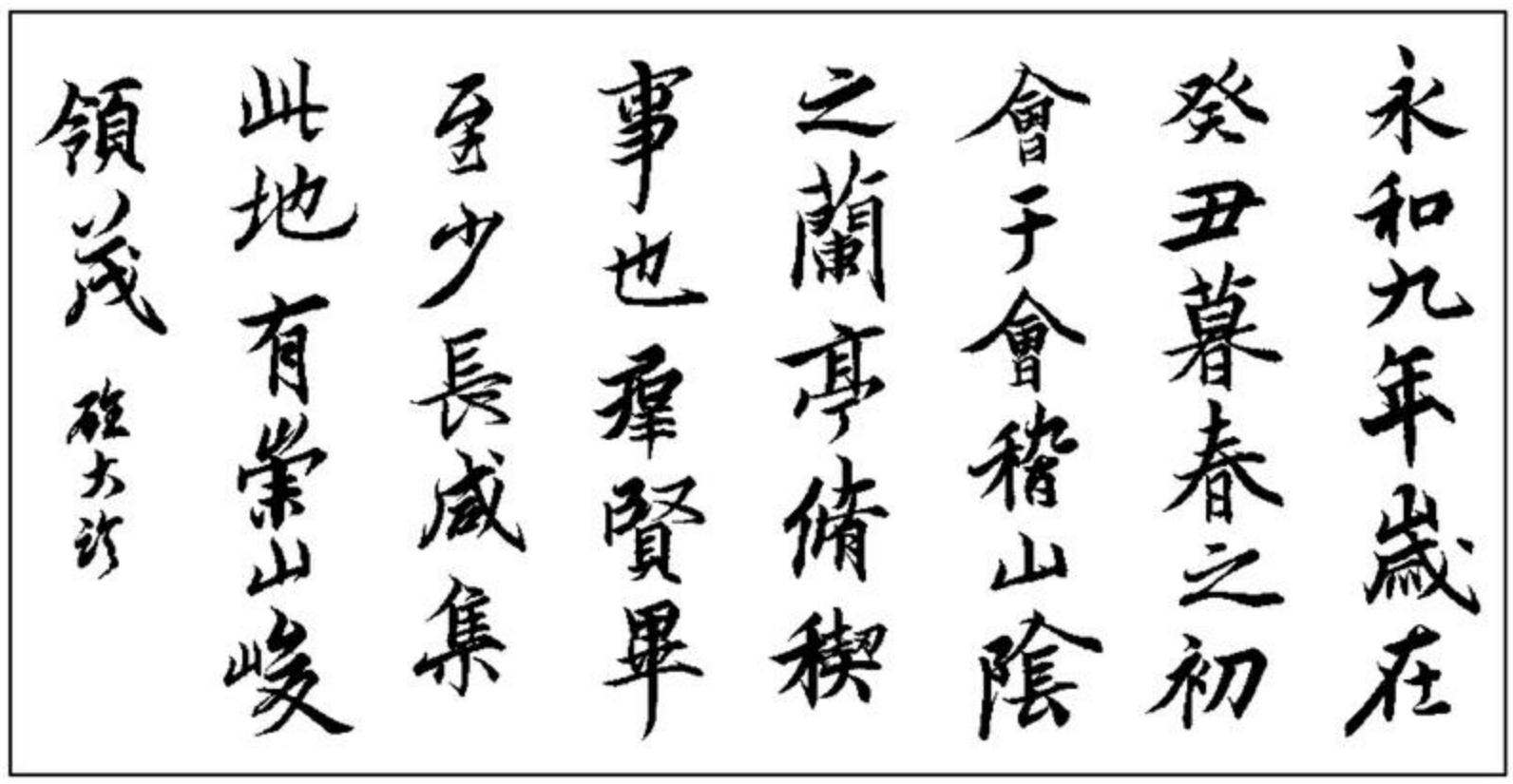
「紅天狗茸」
非常に有名な毒きのこであるベニテングタケで創作しました。毒きのこではありますが、西洋では幸運のきのことされている有難いきのこです。森で美しい個体を見つけられると本当に幸福な気持ちになれますよ。



18

北堀雄大　四回生
臨書　行書　王羲之『蘭亭序』　全紙

「永和九年…」
静謐かつ流麗。一貫の鮨のように。



19

藏岡凌平　三回生
創作　行草　『自悲』　半切

「火宅煎熬地　霜松摧折身　因知群動内　難死不過人」
白楽天の絶句です。「なぜ生きるのか」と自らに問うことをやめニヒリズムに陥り、不安や閉塞感から這い出る意志を失う瞬間があってはならない……言葉で表すのは少々難しいですが、そのようなことを思いながら日々大学生活を送っているところです。



20

郡健一郎　一回生
臨書　楷書　欧陽詢『九成宮醴泉銘』　半切

「仰視則…」
初めての出品です。楷書から始めようと思い九成宮を選びましたが、かなり難しかったです。



21

小島健史　四回生
創作　英字　『A problem without a gift』(Richard Bach「Illusions」より引用)　35×35cm

「There is no such thing as a problem without a gift for you in its hands. You seek problems because you need their gifts.」
「全ての困難は贈り物を携えている。だからこそ人は困難を探し、これに向き合うのだ。」という文です。困難から逃げがち、無難に凌ぎがちな私には、この姿勢を身につけ困難を探しに行く事が肝要だなと思い、書きました。

NO IMAGE

22

米田景　一回生
臨書　楷書　欧陽詢『九成宮醴泉銘』　半切

「惟皇撫運奄壹宇千載膺期萬物斯」
ほぼ初心者なので、楷書から始めてみました。楷書でも習字とは違い、かなり難しく感じました。細部にこだわりすぎずに、大まかな特徴を掴もうとしながら書きました。



23

篠原理那　三回生
創作　行草　『菊花』　半切

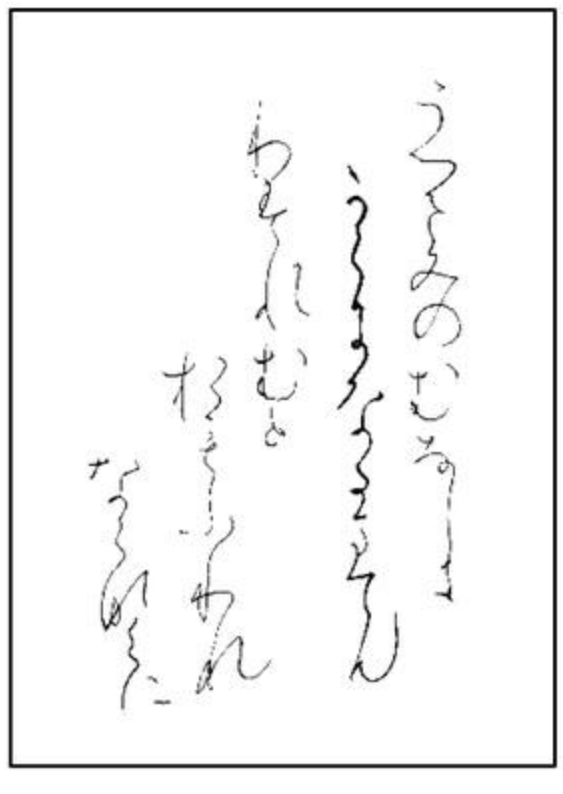
「一夜新霜著瓦輕　芭蕉新折敗荷傾　耐寒唯有東籬菊　金粟花開暁更清」
白楽天の詩、『菊花』を創作しました。初霜の日にただひとり寒さに耐えて、毅然と美しく咲く菊を称えて詠んだ詩です。逆境に耐え抜く中で自分をしっかり持つことの難しさを日々痛感する私の心にぐっとくるものがありました。負けない芯の強さをもつ人間になりたい、その一心で書き上げました。



24

島津七明　三回生
臨書　かな　藤原行成『升色紙』　A4

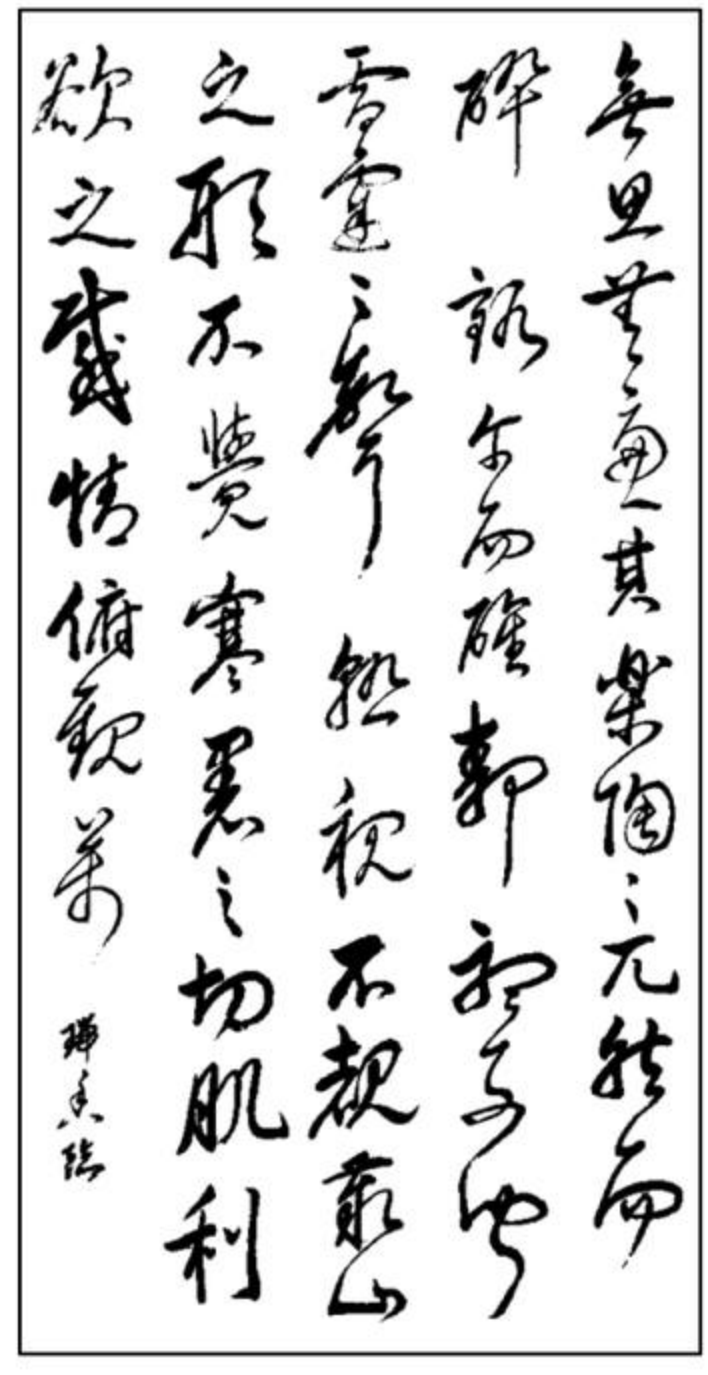
「うつせみのむなしき　からになるまでも　わすれむと　おもふわれ　ならなくに」
切りました。仮名らしい美しさが表現できていれば嬉しいです。



25

清水麻友美　二回生
臨書　行草　董其昌『酒徳頌巻』　全紙

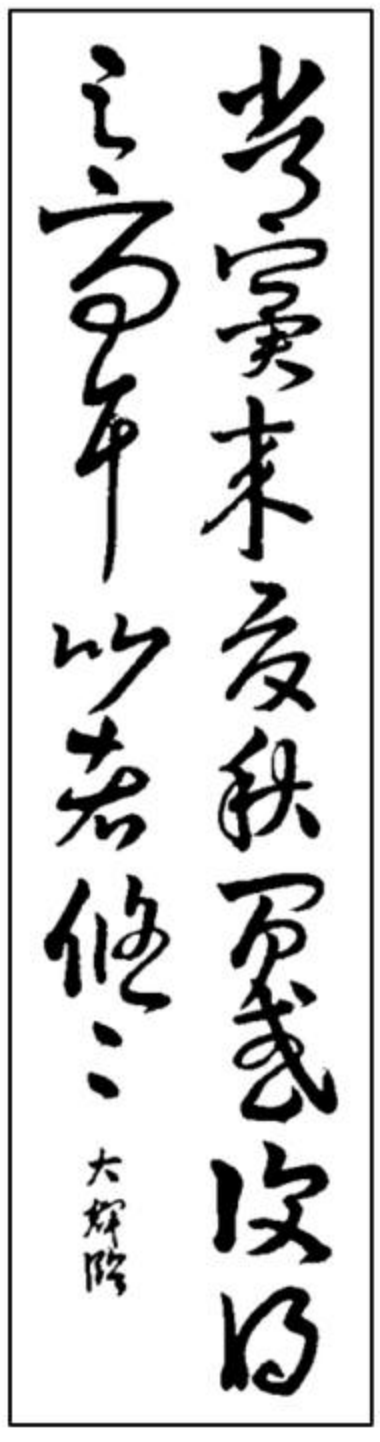
「無思無慮其楽陶々兀然而醉豁尓醒靜聽不聞雷霆…」
連綿の美しさに惹かれ、この法帖を臨書しました。すっきりとした印象を与える作品に仕上がるよう、空間・文字の配置に気を使って書きました。御批評の程よろしくお願い致します。



26

橘大輝　一回生
臨書　草書　王羲之『十七帖』　半切

「常冀來夏秋間或復得足下問耳比者悠々」
頑張って練習しました。ご批評お願いします。



27

立田俊也　二回生

創作　かな・英字　『四季 ～shutoh～』　全紙

「山がわにかぜのかけたるしがらみはながれもあへぬもみじなりけり」あさぼらけありあけのつきとみるまでによしののさとにふれるしらゆき

A dam on～down the stream.When the dawn～moon at dawn.」

仮名を書きたいと思っていろいろ調べていたら「時雨殿」という京都の嵐山にある百人一首ミュージアムのサイトに行きつきました。しかしカルタに書かれているかなが自分の好みとは違ったので、季節感をうまく表現した「寸松庵色紙」の古典をもとにして創作しましたがうまく表現できているでしょうか…



28

徳田寛生　一回生

臨書　行書　巻菱湖『白楽天賀劉蘇州恩賜金紫』　半切

「喜劉蘇州恩賜金紫遥相賀讌以詩」

初めての書展への出品で色々と試行錯誤して大変でしたがなんとか完成しました。特に劉、紫、讌の三文字をこだわったので見て頂ければ有り難いです。



29

中村直樹　一回生

臨書　行書　王羲之『蘭亭序』　半切

「雖無絲竹管弦之盛一觴一詠亦足以暢叙幽情」

蘭亭叙を臨書するのは二回目になりますが、やはり魅力的な書だなあと再確認しました。未熟な点も多いですが、これからも練習していこうと思います。



30

深谷拓未　二回生

創作　調和体　『天衣無縫』　65×105cm

「天衣無縫」

筆は呼吸するんですね。墨をたっぷり含んだ時に見せる豊かな表情、墨が切れてきて苦しい時に発揮する力。この両方の魅力を引き出すよう努めました。



31

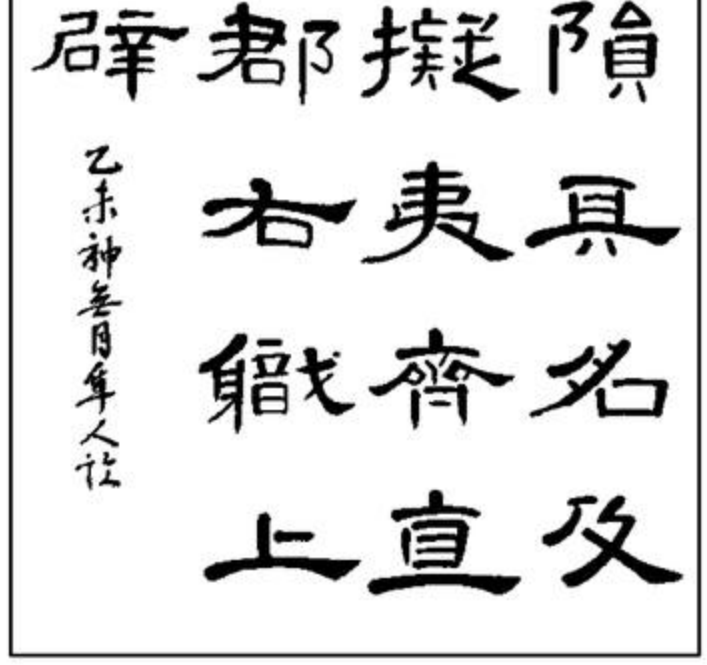
堀場菜摘　二回生
臨書　草書　伊達政宗『自筆書状』　半切

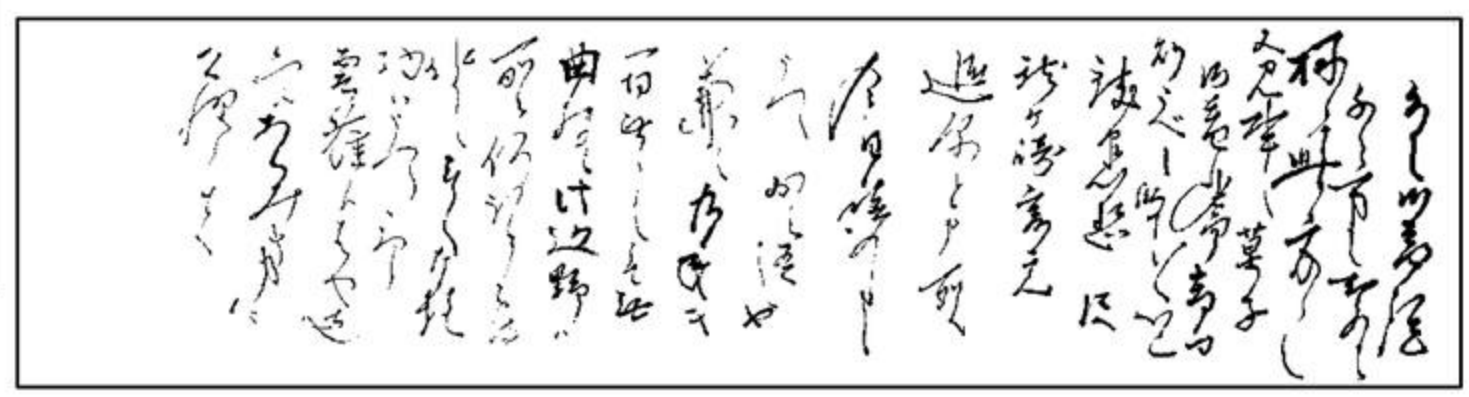
「尚々御音信…」
初めて草書に挑戦してみました。思うようにきれいなかすれが出ず苦労しました。

32

前山隼人　一回生
臨書　隷書　『曹全碑』　全紙

「世載德不隕其名及其従政清擬夷斉直慕史魚歴郡右職上計掾史仍辟」
前作の王羲之から遡ること数百年、今回は隷書の曹全碑を臨書しました。初めのうちは隷書独特の筆遣いに苦戦しましたが、段々コツをつかむことができました。

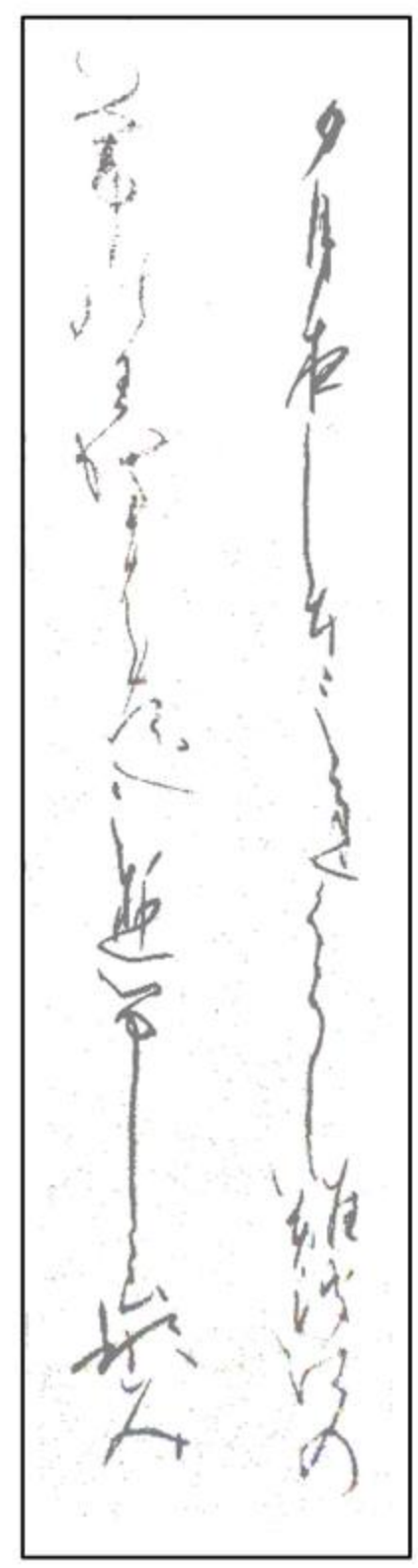




33

眞嶋優一　二回生
創作　かな　『夕月夜』　半切

「夕月夜潮満ちくらし難波江の葦の若葉を越ゆる白波」
夕月夜という言葉の響きに惹かれて書きました。仮名のしなやかな線の流れに詩の情景が目の前に広がる。そんな作品がかけたらと思っています。



34

松尾和輝　一回生
臨書　楷書　褚遂良『雁塔聖教序』　半切

「然而天地苞乎陰陽而易識者以其有像也陰陽處乎天地而難窮者以其無形也」
前回は二行の行書だったので、今回は三行の楷書を選びました。同じ文字が隣接してしまっている部分もありますが、様々な書き方を練習出来たので書いて楽しかったです。



35

宮下拓也　四回生
創作　草書　『姿』　全紙

手書きっていいなと思うことがあって、その時の感じたこと、印象を表現したいと思い書きました。

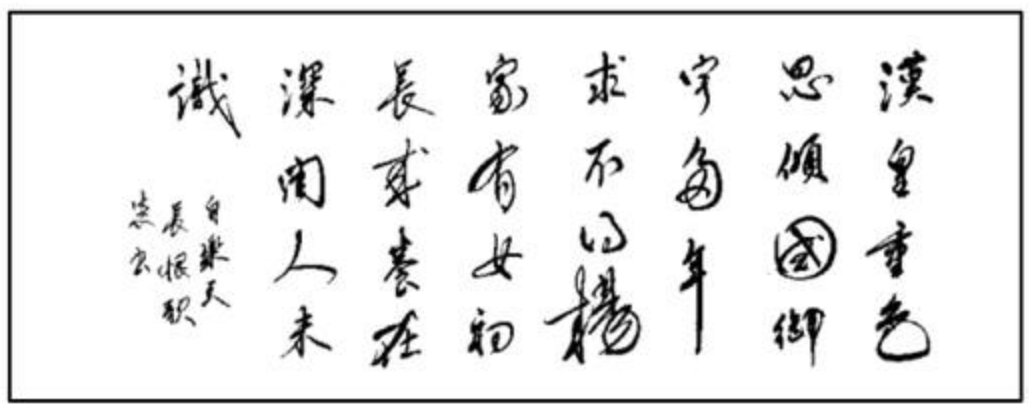


36

家倉凌　四回生
創作　行草　『長恨歌』　半切

「漢皇重色思傾國，御宇多年求不得。楊家有女初長成…」

奇をてらわず、丁寧に書くことを心がけました。

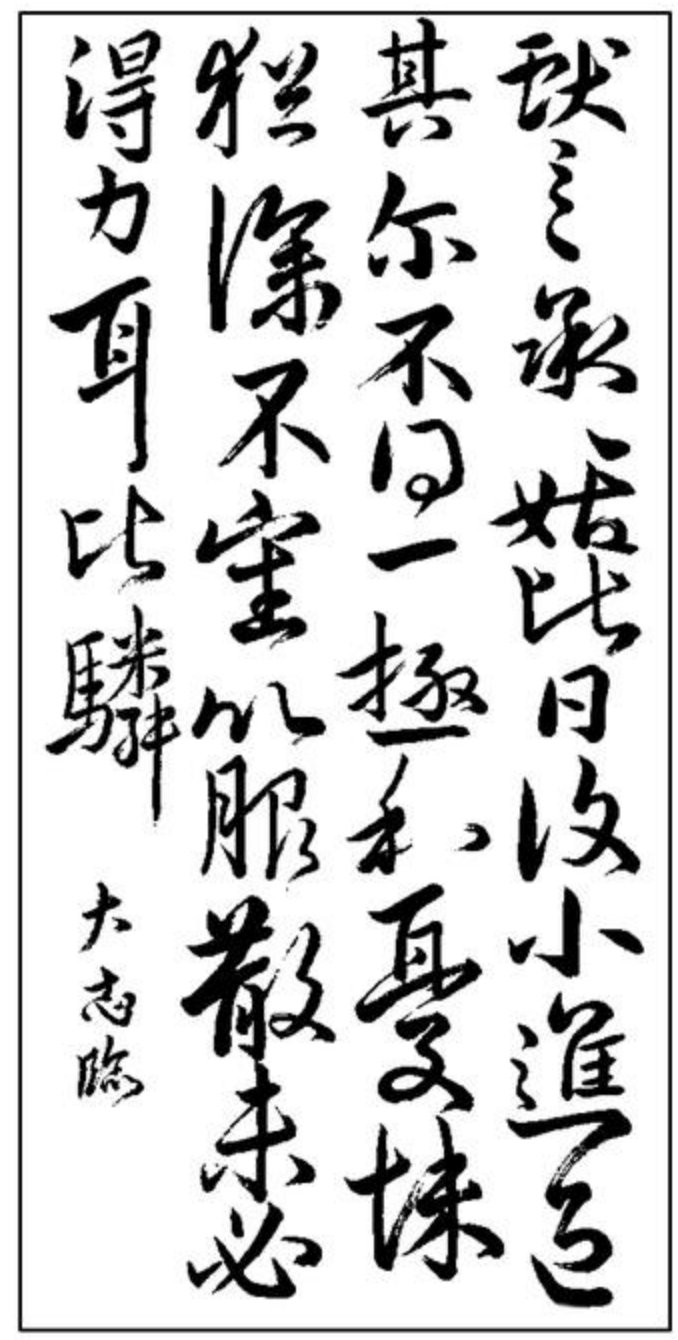


37

宮部大志　二回生
臨書　行書　王献之『姑比日帖』　全紙

「獻之白承承姑比日復小進退其爾不得一極和憂悚猶深不審比服散未必得力耳比□」

書道ってほんとに疲れますね



38

山崎夏野　二回生
臨書　草書　懐素『自叙帖』　半切

「兼好事者同作歌以賛之動盈巻軸夫草藁之作起於漢代杜度崔瑗始以妙聞迨」

書くたびに違った線が出て面白かったです。自由に書けたと思います。



39

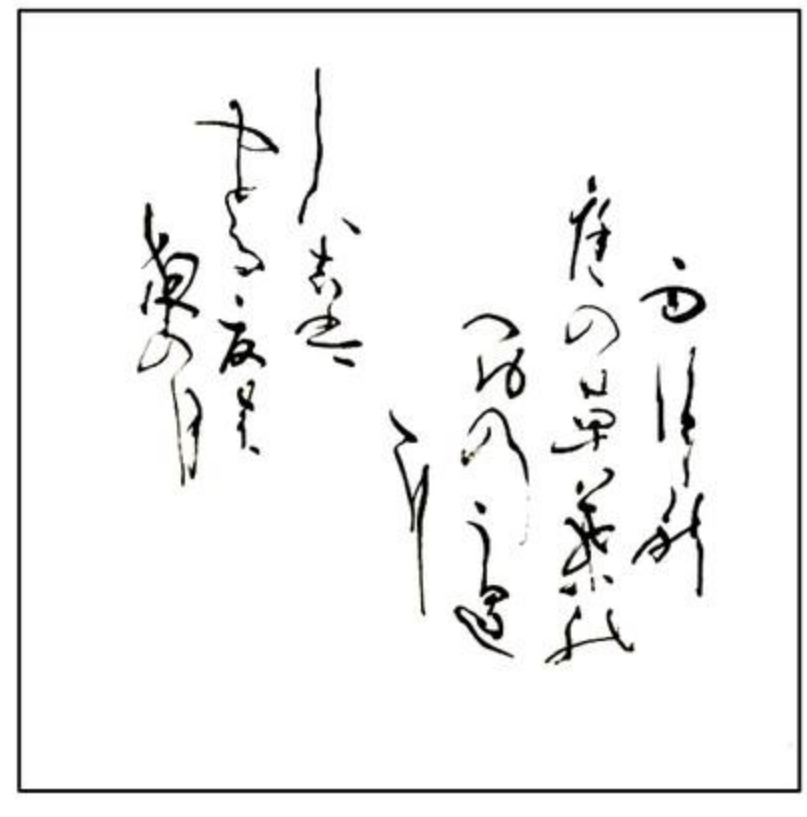
矢野凱己　二回生

創作　かな　『四季の月』　全紙二分の一　二連

「雨すぎし 庭の草葉の つゆのうへに しばしはやどる 夏の夜の月」

「水鳥の こえも身にしむ 池のおもに さながらこおる 冬の夜の月」

本当は漢字の臨書をやる予定だったのですが…読売書法展を見に行き、そこに並ぶ仮名作品の数々に私は魅了され、その場の勢いで予定とは正反対ともいえる仮名の創作をすることに…。試行錯誤しながらようやく辿り着いた作品がこちらです。どうかお手柔らかに。





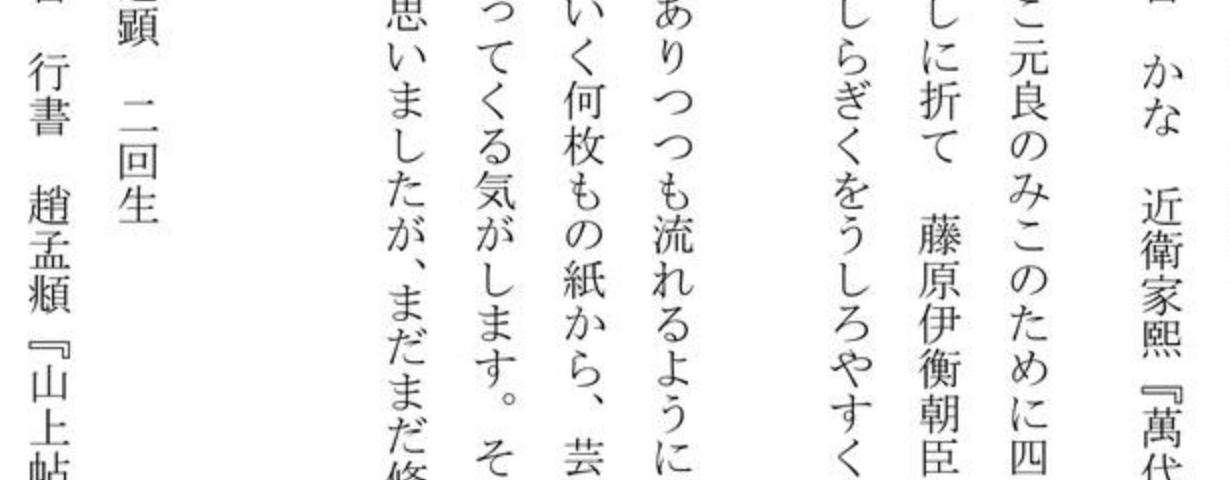
40

吉村友希　三回生

臨書　かな　近衛家熙『萬代帖』　巻子

「女八のみこ元良のみこのために四十賀し侍けるに、菊花をかざしに折て　藤原伊衡朝臣　よろづよのしもにもかれぬしらぎくをうしろやすくもかざしつるかな…」

メリハリがありつつも流れるように書かれた線、次々と継がれていく何枚もの紙から、芸達者とされる作者の心が伝わってくる気がします。それを汲み取り表現できればと思いましたが、まだまだ修行が足りません。



41

渡辺顕　二回生

臨書　行書　趙孟頫『山上帖』　半切

「聒方盛暑中求法語者　無數度老師必大厭」

かすれ方、字間の幅など、試行錯誤して色々悩みました。行書の難しさには毎回悩まされています。今回は、個性的な字が多くて苦労しましたが、面白かったです。趙孟頫の個性を表現できていれば、と思います。



42

木下有羽・矢野凱己・山口和樹　二回生

創作　篆書・調和体・仮名　『勝絶』　全紙四分の三

「初雪や　きゆればぞまた　草の露　他二首」

自然の美しさに感動できる心をいつまでも持ちたいものですね。

43

荒巻拓哉・角谷遊野・宗哲仁・山﨑絢香　三回生

臨書　傅山『五言絶句四屏』　二尺×八尺　四連





「遺却珊瑚鞭。白馬驕不行。章台折楊柳。春日路傍情。

妾有羅衣裳。李王在時作。為舞春風多。秋來不堪著。

日夕見寒山。便為獨往客。不知深林事。但有麝跡。

颯颯穠雨中。淺淺石溜瀉。跳波自相濺。白鷺驚復下。」

この四人でしか、できないことがある。個性や技術、価値観の違いすらも力に変えて、四枚が一つの作品として成立する瞬間を模索しました。





44

こうか合作

創作　『こうか合作～構造式つくってみた～』

今回、一回から修士一回までの総勢十五人での合作となりました。書道部にはこんなにも工学部工業化学科がいるんですね。工業化学科、略して「工化」。沢山の「こうか」を集め、分子を作り上げました！

45

二回生合作

創作　『書と私』

二回生合作は詩の創作である。セオリーにとらわれず悪戦苦闘しながらも自由に詩を作る。我々の書道への思いを感じていただけると幸いだ。

46

全体合作

創作　『合体漢字』

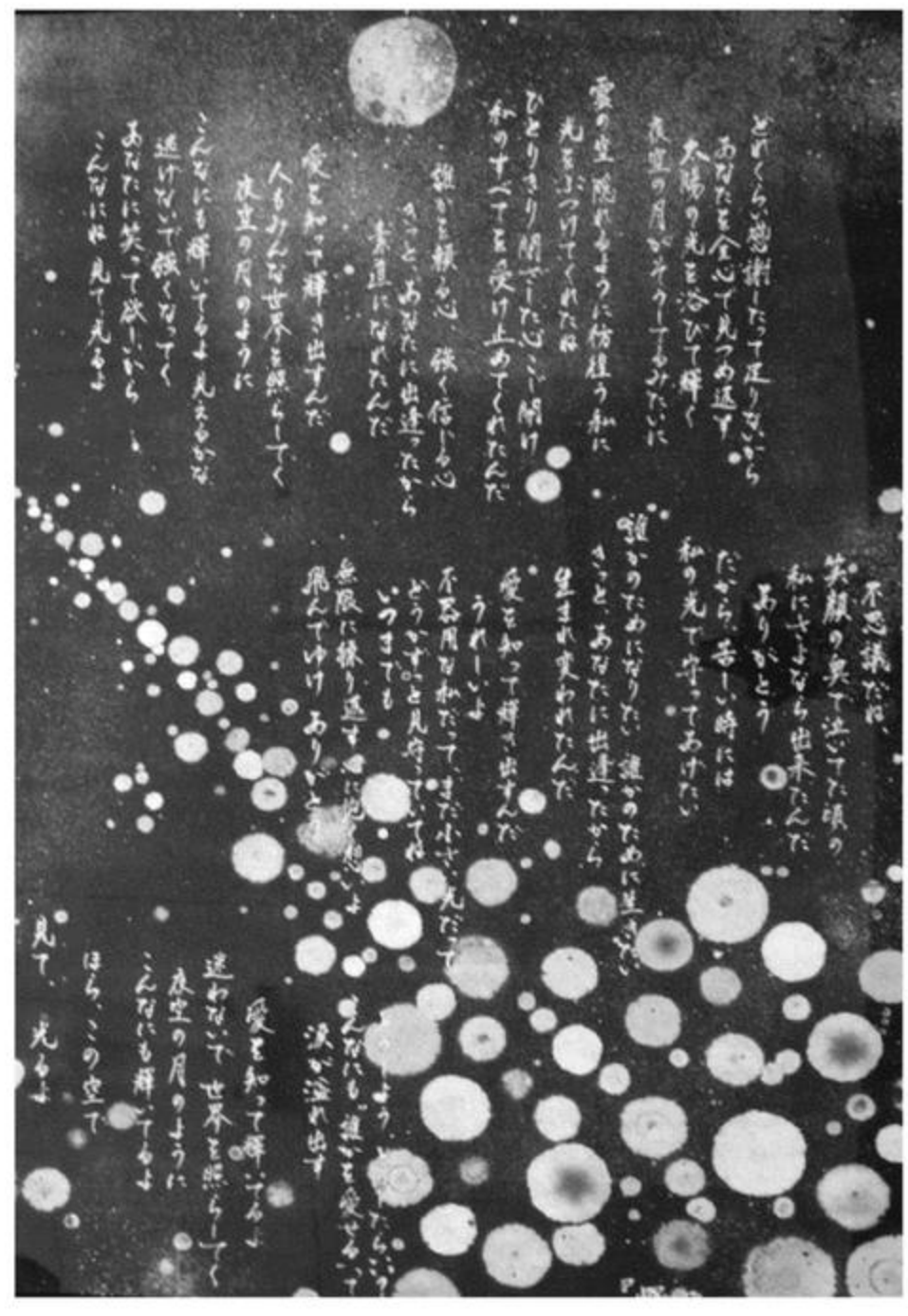
今回の全体合作は、合体漢字。書道部員の個性豊かでウィットに富んだ自由な発想の数々をお楽しみください。

○禅居庵

47

稲葉由花利　四回生
創作　調和体　『輝く月のように』　A1

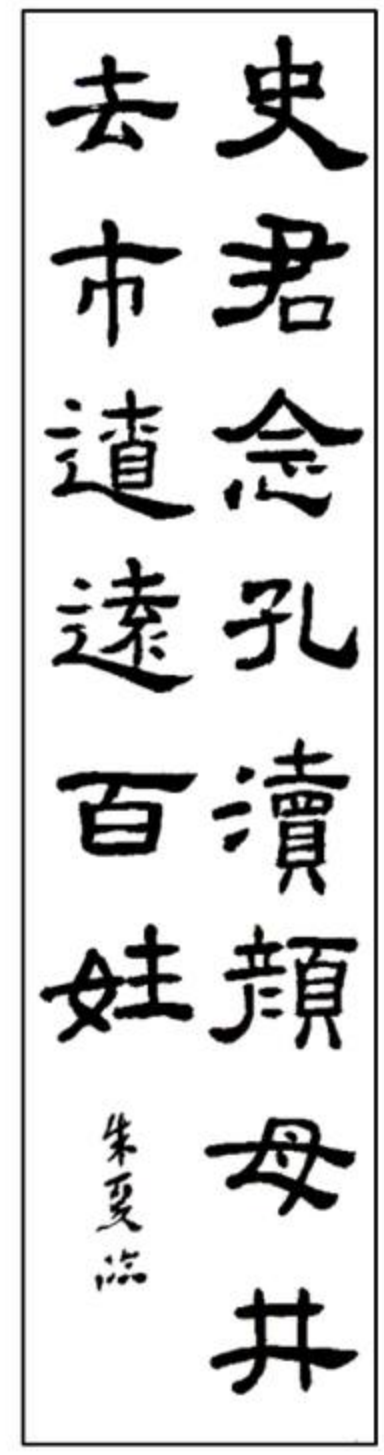
（釈文省略）
わんぱうで遊んだ♡♡



48

阿部朱夏　一回生
臨書　隷書　史晨『史晨後碑』　半切

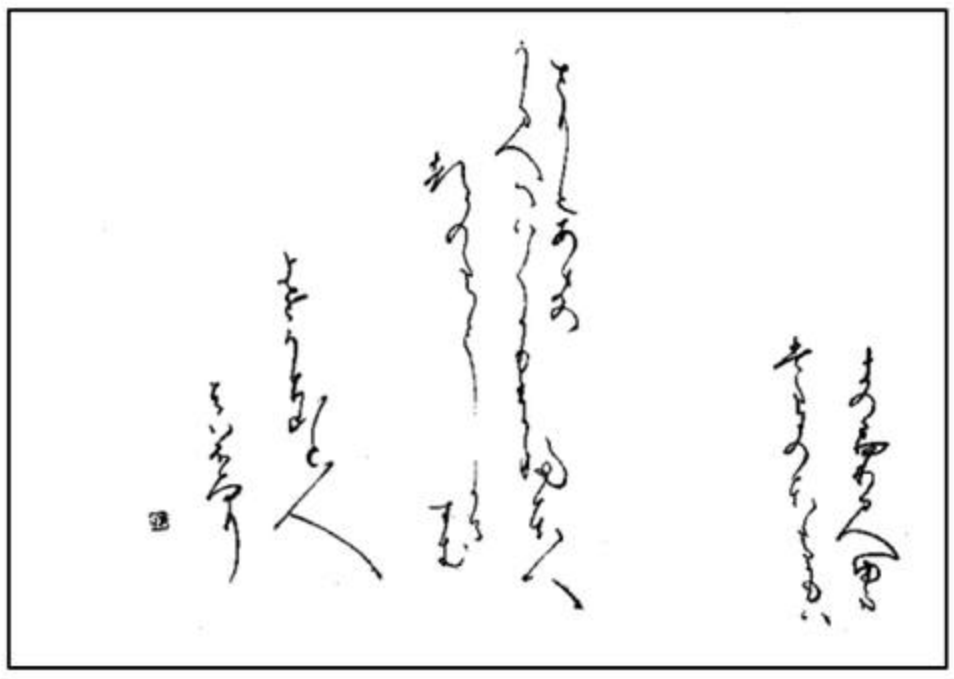
「史君念孔瀆顔母井去市遼遠百姓」
初めて古典の臨書をするにあたり、中学の頃から気になっていた隷書のなかから、特に「君」に見られるかわいらしい線質に惹かれてこれを臨書することにしました。



49

伊東優治　修士一回生
創作　かな　『喜撰法師二首』　全懐紙

「木の間より見ゆるは谷の蛍かもいさりにあまの海へ行くかも　わが庵は都のたつみしかぞすむ世をうぢ山と人はいふなり」
修士になってから宇治キャンパスで研究をしているので、宇治に縁のある喜撰法師の歌を書きました。日々の研究は忙しくも楽しいですが、たまにのんびりと書道をするのもやはり楽しいです。細字の繊細さと散らし書きの美しさを感じていただければ幸いです。

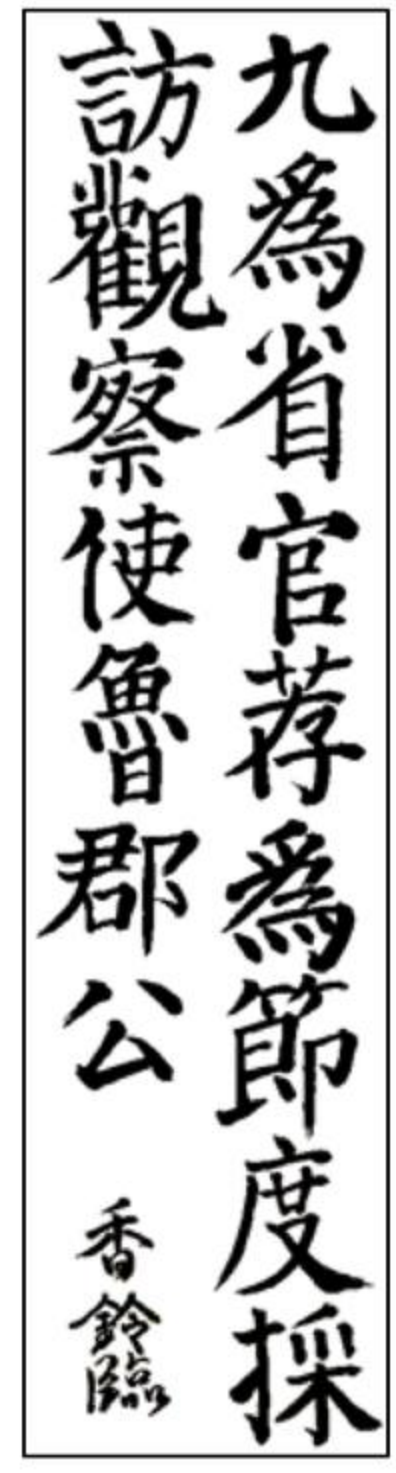


50

上村香鈴　一回生
臨書　楷書　顔真卿『顔勤礼碑』　半切

「九爲省官荐爲節度採訪觀察使魯郡公」

今回は初めての書展への出品ということで楷書の作品にしてみました。一枚仕上げるのに三十分ほどかかる作品を書くのは初めてだったので、大変でしたし、途中で投げ出したくなりました。この楷書という苦行を乗り越えた先には幸せが待っていると信じています。



51

上村耕平　四回生
臨書　楷書　三妙観重『重修三門記』　半切四分の一

「天地闔闢而軋坤為出入経乎酉為」

今回で最後の作品提出となりました。今まで楷書を書いてきたので今回も書きたくて書きました。あまり書ける時間が取れなかったのですがご批評宜しく御願いします。



52

牛山泰喜　三回生
臨書　篆書　鄧石如『篆書白氏草堂記六屏』　半切

「石嵌空奇木異艸蓋覆其上緣陰蒙々朱實」

今回の篆書には初めて挑戦しました。書いてみるまでは隷書と似た筆遣いというつもりが、実際書いてみるとかなり違うことに気づきました。鄧石如は隷書も上手な書家ですが、篆書も整っていて綺麗です。それを自己流にならないよう気を付けながら書いてみました。



53

上井晴仁　三回生
創作　行書　『疾風怒濤』　半切

「疾風怒濤」

三回生になり、研究室のこと将来のことを考えなくてはなぁ、という時期になってしまいました（十月時点）。疾風怒濤の世の中で、しっかり生きていきたい。そのためにはまず研究室配属されないといけないんですけどね！！



54

閻姝恒　三回生
創作　草書　『風乍起』　全紙二分の一

「風乍起 吹皺一池春水」
春風が突然起こり、池にはさざ波の波紋が広がっていく。元々関係なく、他の些細なことで、心が乱れてしまうという奇妙な瞬間のことです。



55

小野日菜乃　一回生
臨書　行書　顔真卿『祭姪文稿』　半切

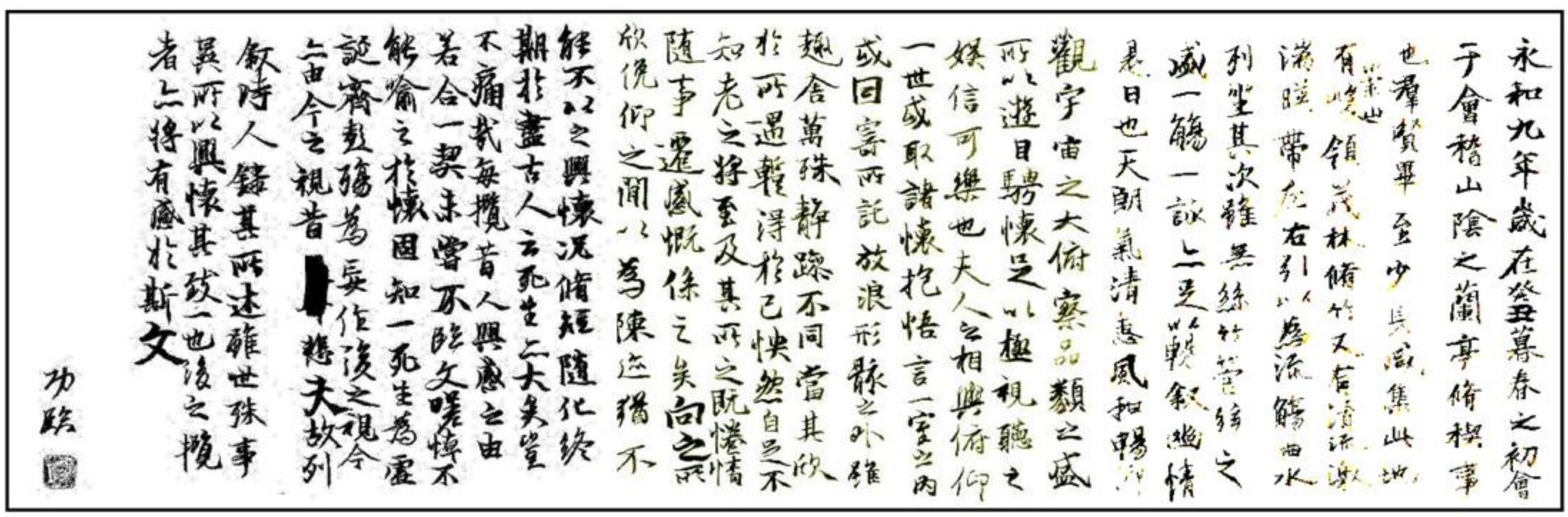
「蒲州刺史上軽車都尉丹楊県開国候真卿以清酌庶羞祭于亡姪贈賛善大夫季明」
祭姪文稿は顔真卿の三稿の一つであり、姪の死を悼む内容のものです。今回切り取ったのは、その冒頭。顔真卿らしいむっちりとした線質や、気持ちの浮き沈みに合わせて揺れる線を表現できるよう努力しました。墨の濃淡や文字の大小は自分なりに工夫しています。



56

川口功　二回生
臨書　行書　王羲之『蘭亭序』
蘭亭序原寸大

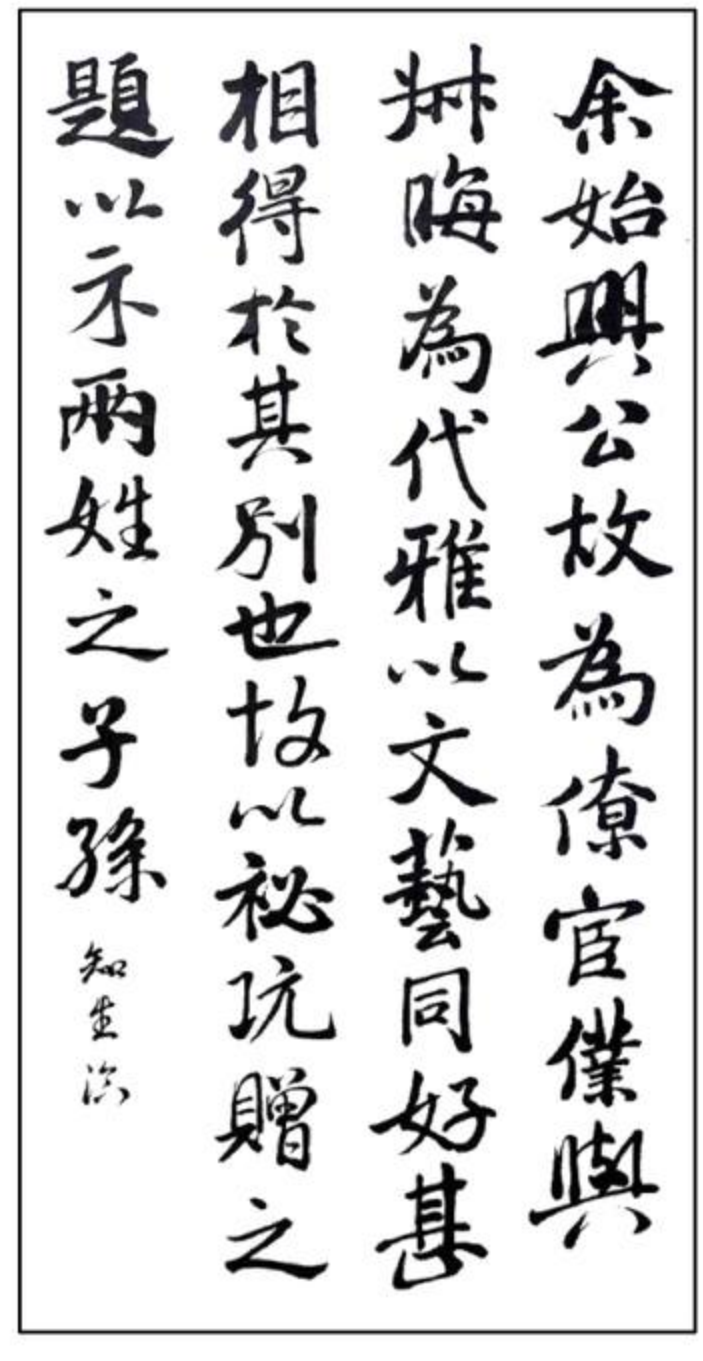
「永和九年歳在癸丑暮春之初會于會稽山陰之蘭亭脩禊事(中略)亦將有感於斯文」
書道史上最大の作品と称される、王羲之の蘭亭序を、原寸大で全臨しました。蘭亭序の雰囲気が伝わるよう、原文に忠実に書くことを第一に心がけました。



57

笠原知生　二回生
臨書　行書　米芾『叔晦帖』　全紙

「余始興公故為僚宦僕與叔晦為代雅以文藝同好甚相得於其別也故以秘玩贈之題以示兩姓之子孫」
響都展では米芾の草書を臨書しましたが、今回は行書を臨書しました。米芾の書の雰囲気がとても好きですが、表現するのが難しいです。



58

木高早紀　二回生
臨書　行書　董其昌『邠風図詩巻』　半切

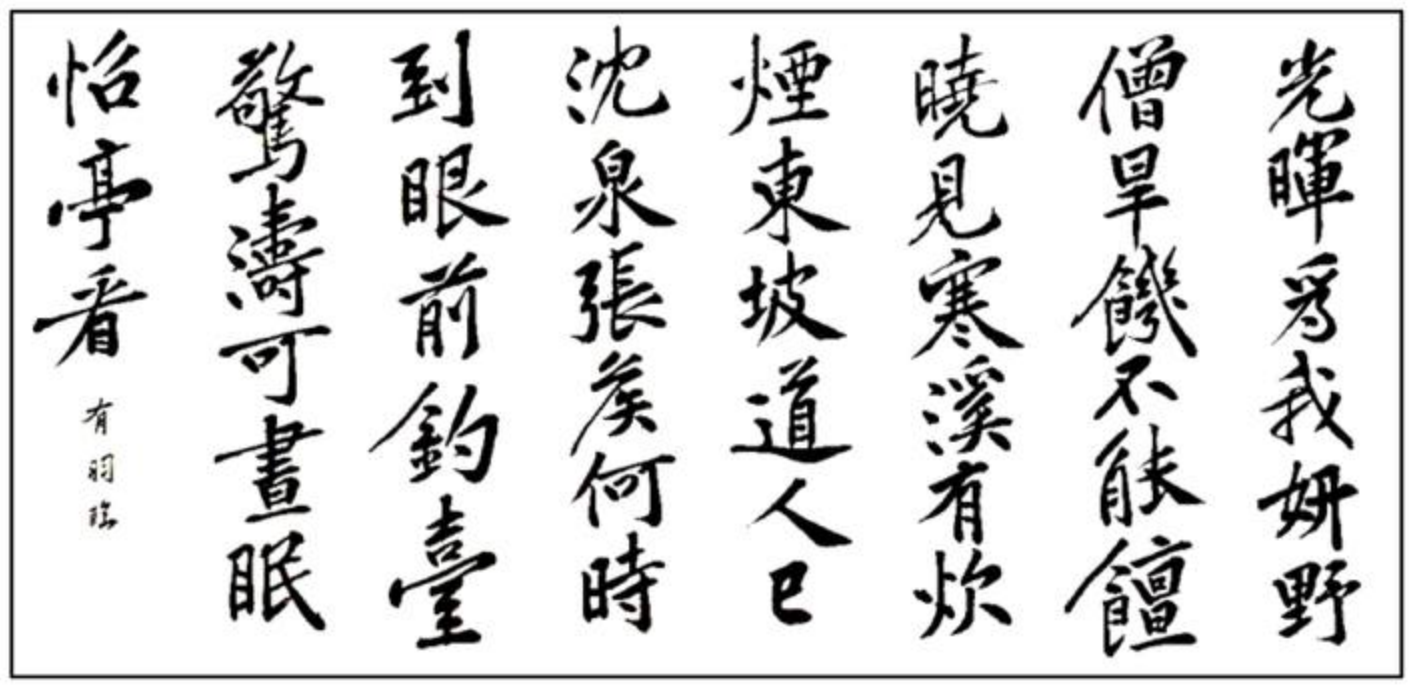
「王書金簡不足異。布帛菽粟眞文字。」
今回初めて行書に挑戦し、書展に出展させていただきます。「帛」、「菽」の長くのびる縦線が気に入りこの部分を選びました。全体的なバランス、特に字の大きさを小さくするのに苦労しました。



59

木下有羽　二回生
臨書　行書　黄庭堅『松風閣詩巻』　全紙

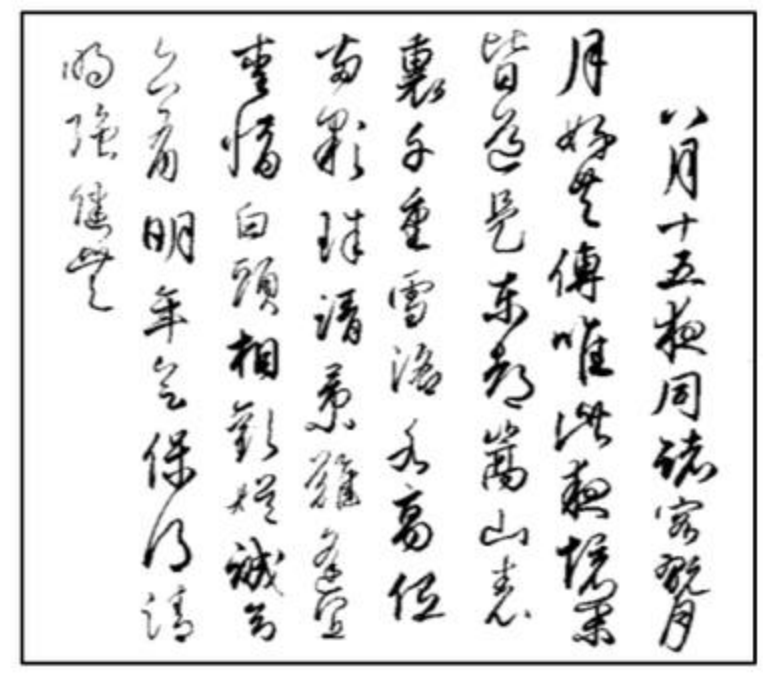
「光暉爲我妍。野僧旱饑不能饘。暁見寒溪有炊煙。東破道人已沈泉。張侯何時到眼前。釣臺驚濤可晝眠可怡亭看」
黄庭堅の書風に惹かれ臨書しました。これと決めた法帖をひたすら練習するタイプなので、この法帖もかなり書き込みました。初めて出品した去年の冬樟展から少しは成長できているでしょうか。



60

小松聡子　修士一回生
臨書　行書　藤原行成『白楽天詩巻』
25cm×150cm

「八月十五夜、同諸客翫月…」
こんな字がサラリと書けるようになりたい！そんな思いで練習しました。流れるように嫋やか中に雄々しい線も混じっているこの作品は、生き方としても真似したいです。



61

小松聡子　修士一回生
創作　調和体　『雪』　10cm×10cm

「太郎をねむらせ、太郎の屋根に雪ふりつむ。
二郎をねむらせ、二郎の屋根に雪ふりつむ。」
静かな冬の夜、降り積もる雪を思い浮かべていただけたでしょうか？

NO IMAGE

62

小島健史　四回生
創作　楷行　『慎獨』　半切

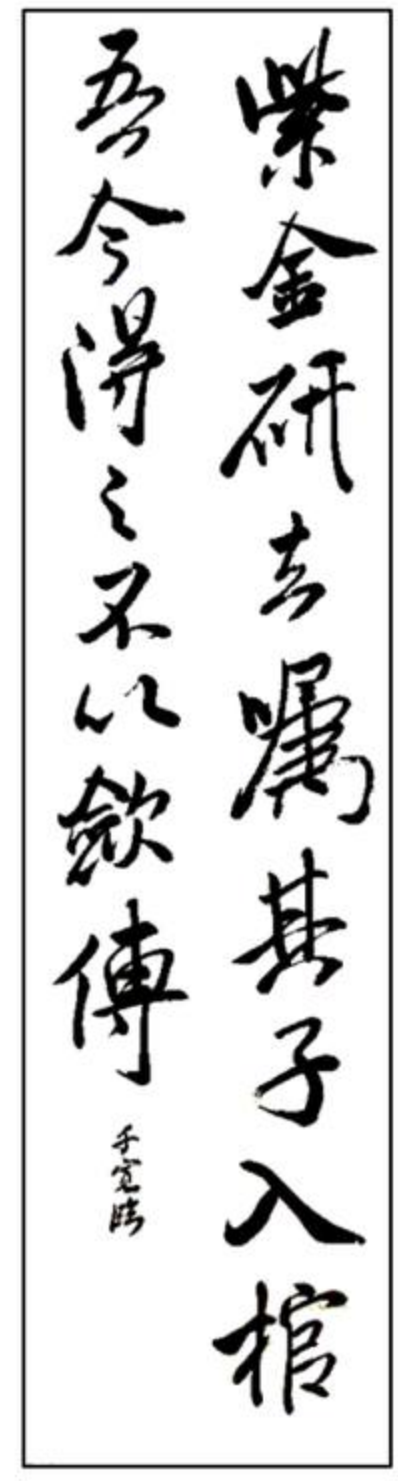


「道也者、不可須臾離也。可離非道也。是故君子戒慎乎其所不睹、恐懼乎其所不聞。莫見乎隱、莫顯乎微。故君子慎其獨也。」
「誰も見てない独りの時であっても、慎んで行動しなさい」という儒教の言葉です。周りの眼や評価の有無を指針に行動をしてしまう私には、この精神を身に付ける事が第一歩なんだと思い至り、書きました。

63

佐武千寛　一回生
臨書　行書　米芾『紫金研帖』　半切

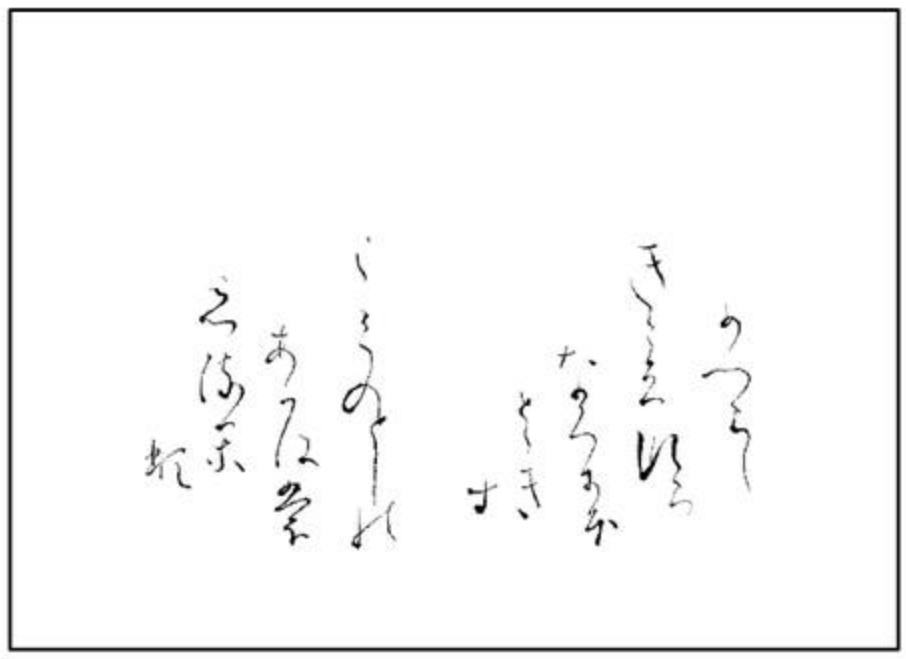
「紫金研去。囑其子入棺。吾今得之。不以斂。傅」
法帖の「紫金研」の美しさに惹かれて書くことを決めました。私にとって二作目の作品で、前作は楷書だったので今度は行書を選んでみたところ、のびのび書けてとても楽しかったです。まだまだ至らない点はありますが、書いていて楽しいと感じるこの気持ちはこれからも大切にしていきたいです。



64

島津七明　三回生
臨書　かな　小野道風『継色紙』　89×254mm

「めづらし　きこゑなら　なくにほ　とゞぎす　こゝらのとしの　あかずも　あるか　な」
構成の美しさに惹かれて臨書しました。ご批評よろしくお願いします。



65

清水隆史　一回生
臨書　楷書　欧陽詢『九成宮醴泉銘』　半切

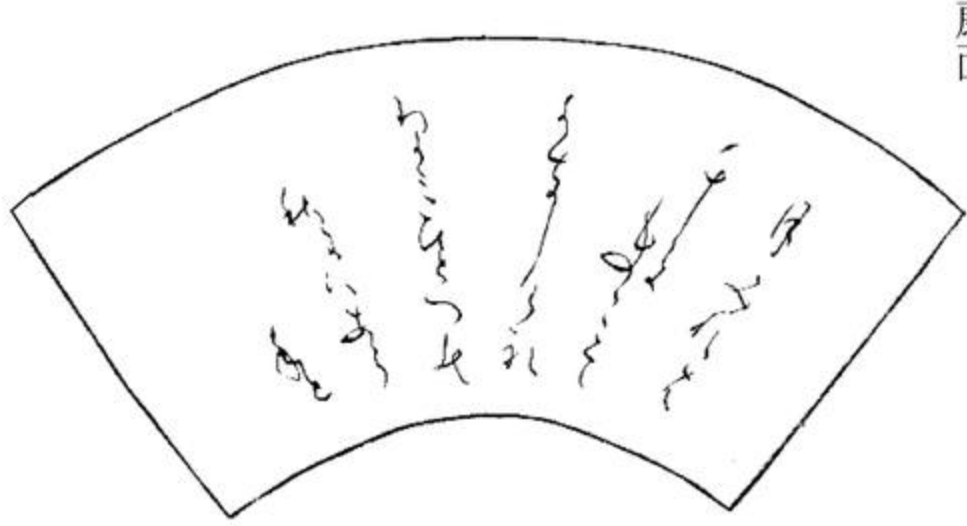
「承以石檻引為一渠其清若鏡味甘如醴」
初めて臨書というものをしました。そもそも習字や書道の経験がないもので拙筆もいいところですが、そのあたりは大目に見ていただければ幸いです。清水の名にかけて「清」の字だけは頑張ったつもりなのですが…。



66

下坂桃代　二回生
創作　かな　『百人一首』　半切二分の一　扇面

「月見れば（者）
千々に（尓）もの
か（可）な（奈）しけ（介）れ（礼）
わが（可）み（三）ひとつの（能）
秋に（尓）は（八）あらね（年）ど」
百人一首から四首選び、半切二分の一のサイズの軸に扇面の作品を四枚配置しました。扇型の作品を制作してみたいと思い、今回初挑戦しました。扇面の作品は字の配置や行間などが難しかったのですが、自分が思い描いたような作品を作ることが出来ました。



67

白谷暢浩　三回生
創作　行草　『良寛詩』　全紙

「遠山飛鳥絶閑庭
落葉頻寂莫秋風
裡獨立緇衣人」

つくりたい、つくりたい、私もこんな風に。
五年前の冬、
白髪の老人のつくるひとときに
魅せられてから、
胸にあり続けるこの思い。

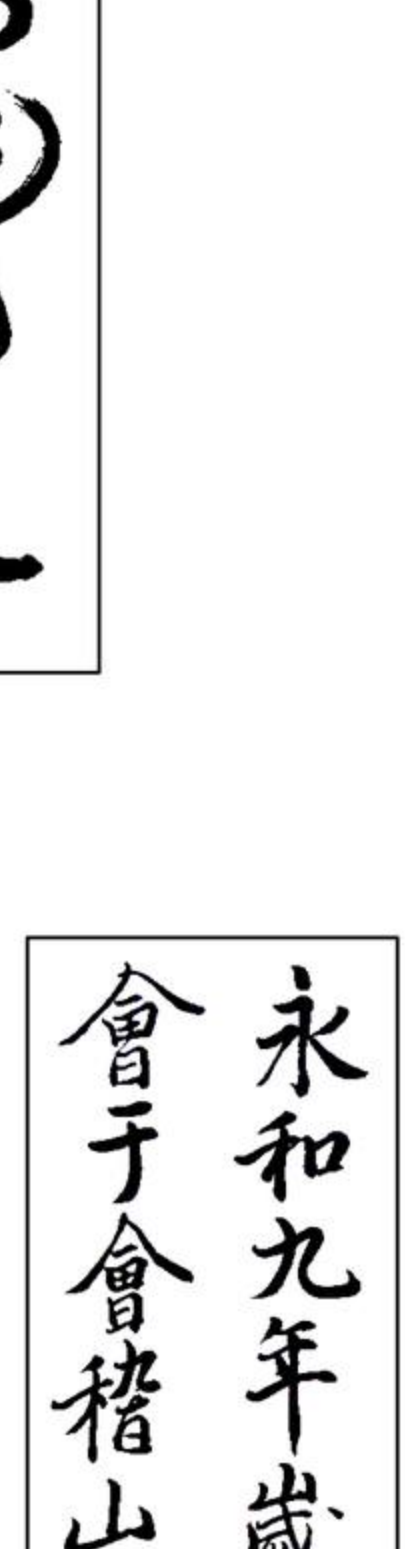


68

杉本舞　一回生
臨書　行書　王羲之『蘭亭序』　半切

「永和九年歳在癸丑暮春之初…」

今回臨書した蘭亭序は、わたしが高校の時初めて臨書した作品です。それから何作品か臨書した今、もう一度書いてみたいと思いこの作品を選びました。今回の臨書で、改めてこの書の美しさを知ることができたとともに、自分の成長も少しは感じることができたと思います。



69

鈴木貴也　修士一回生
創作　篆刻　白居易『草』　6.9cm×4.6cm

「離離原上草、一歳一枯榮。野火燒不盡、春風吹又生。」

卒業旅行の際に訪れた秋吉台の土産物屋で頂いた石に、有名な山焼きに絡めた白居易の漢詩を刻してみました。





70

角裕介　一回生
臨書　草書　米芾『海岱帖』　半切

「兩三日未解。海岱只尺不能到。焚香而已。日短不能晝眠。又少人往還。惘々。」
書展は今回が初めてで、手探りながらの作品です。パンフ掲載と仕上がった作品がやや異なりますが、ご批評よろしくお願いします。

71

石博昭　四回生
創作　草書　『長干行』　A4

「妾髪初覆額折花門前劇郎騎竹馬来…」
緑のある生活を、送っています。



72

竹内春佳　二回生
臨書　楷書　欧陽詢『九成宮醴泉銘』　半切

「百尋下臨則崢嶸千仞珠璧交映金」
夏合宿ではじめて『九成宮醴泉銘』を書いてから欧陽詢が書く楷書の奥深さに感動し、今回は別の場所の臨書にチャレンジしました。特に、崢嶸という文字は難しかったです。書展への出品ははじめてでまだまだ拙い字ではありますが見て頂けると幸いです。

73

中谷百花　四回生
創作　かな　『夕ぐれは』　半切

「夕ぐれは　雲のはたてに　物ぞ思ふ　あまつそらなる　人を恋ふとて」
冬の紫立った夕暮れが好きです。



74

橋詰都　一回生
臨書　隷書『曹全碑』　半切

「君諱全。字景完。敦煌效穀人也。其先蓋周之胄。」
夏合宿から書いていた曹全碑がやっと作品になりました。高校時代よりも長い時間を書道に使えるようになって嬉しいですが、今回の作品では練習を重ねるほど線が単調になってしまうことに悩みました。



75

原誠人　一回生
創作　調和体　『うつし世はゆめ』　全紙二分の一

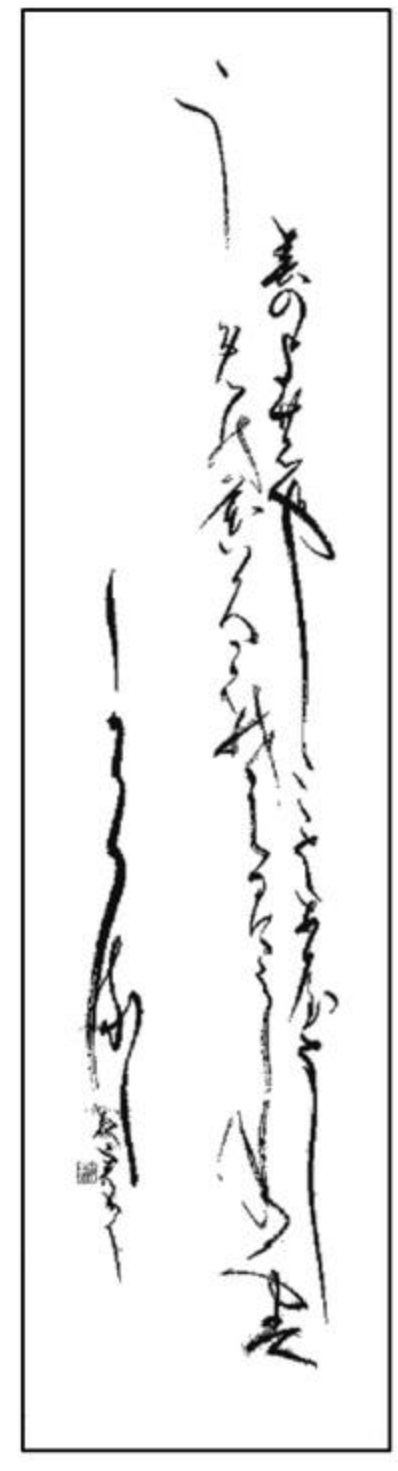
「うつし世はゆめ　よる能（の）夢こそま古（こ）と」
日本探偵小説の父・江戸川乱歩、没後五十年。横溝正史、松本清張から綾辻行人まで、ミステリ界に彼の影響を受けざるはなし。そんな乱歩は色紙を頼まれると、よく「うつし世はゆめ…」としたためたそうです。どうしても「今」書きたかったので、未熟を顧みず初挑戦の調和体。乱歩の妖しい魅力を表せていればと思います。



76

原田拓実　一回生
創作　かな　『春の夜の闇はあやなし…』　半切

「春のよの（農）やみ（三）は（者）あや（屋）な（奈）しうめ（免）の（能）花いろこそ（楚）み（見）えね（年）か（可）やは（盤）か（可）くる（流）る」
高一の時に不完全燃焼で終わってしまった作品をこの機会にもう一度書いてみました。前に書いた時よりも構成に気を遣うことが出来たと思います。今後もより良い作品が書けるよう精進していきます。



77

前山隼人　一回生
臨書　行書　文徴明『行書詩巻』　半切

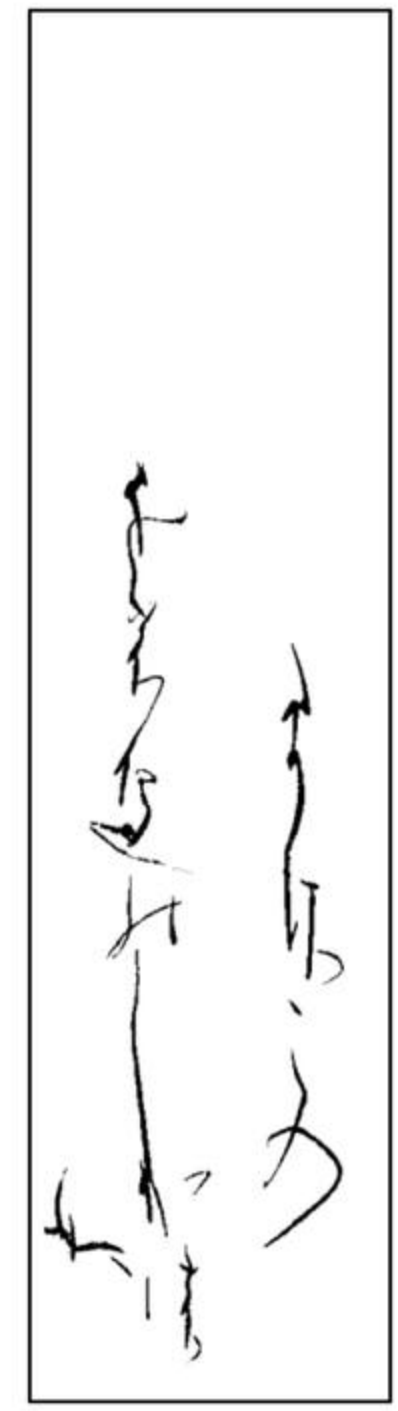
「逕登々屐似油怪是酣吟留不去水雲千頃」
鋭い線と払いが気に入ったので書こうと思いました。パフォーマンスをしながらの作品製作だったので練習する時間が少なかったですが、その分中身の濃い練習をしようと心掛けました。



78

眞嶋優一　二回生
創作　かな　『たかさごの』　半切二連

「高砂の尾上の鹿の鳴かぬ日も積もりはてぬる松のしら雪」
降り積もる雪の無限に広がる真っ白な銀世界　大自然の静寂に包まれて





79

山科直也　二回生
臨書　行書　『温泉銘』　半切

「吐岫標神古之不旧今之不新痾蕩療俗医民凍霜夕飛炎雪晨林寒尚翠」
筆の運びなどとても特徴的で非常に面白いと思いましたのでこの作品の臨書をしてみました。まだまだ拙いところも多々あるかと思いますのでご指摘、ご品評よろしくねがいします。



80

松澤祐実　四回生
臨書　行書　文徴明『行書詩巻』　半切

「碧山收雨緑陰成白苧翻歌夏意清春事不嫌三月盡勝遊剛喜四難幷品泉有意追鴻漸」
文徴明の作品の力強さ、かっこよさにひかれて再び臨書に取り組みました。他の書家の作品と悩みつつも、最終的に文徴明を選ぶことが多いです。文徴明の作品の魅力を少しでも表現できていれば嬉しいです。



81

家倉凌　四回生
創作　かな　『月光こうこう水の上』　色紙

「月光くわうくわうくわう水の上」
「月光はこうこうと音を立てて、この野の上の家を青い光の底に沈ませていた。（川端康成・掌の小説『馬美人』より）」



82

山口和樹　二回生
臨書　隷書　趙之謙『隷書八言聯』　半切二連

「通神達明應運捷度
鈎河適雒奉魁承杓」

先日、趙之謙の作品集を購入しました。そのため、今後も臨書は趙之謙の作品しかする気はないです。

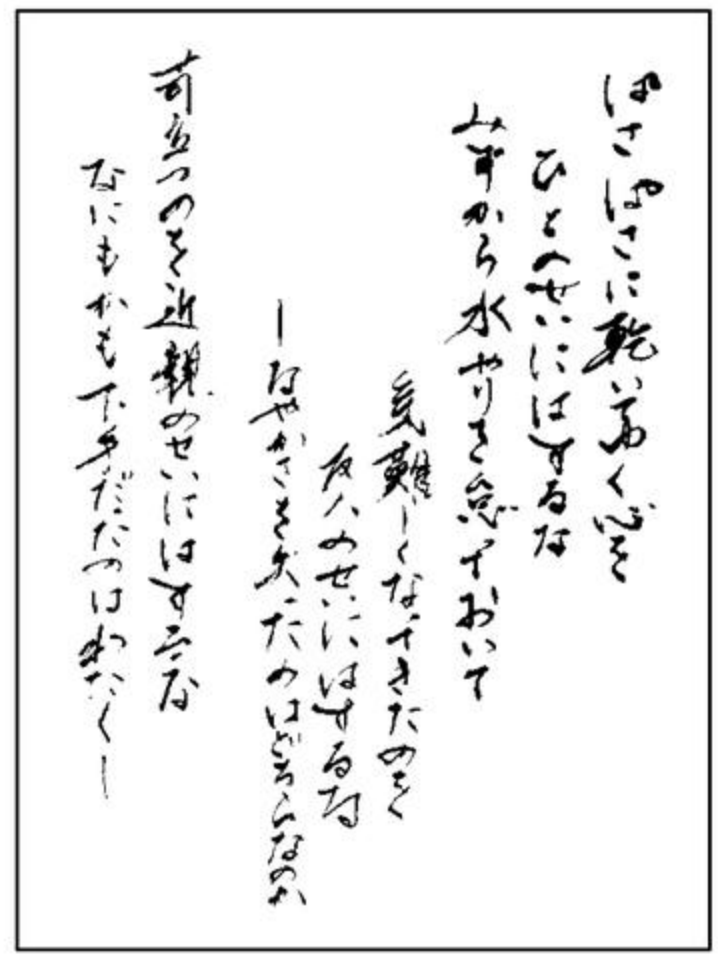


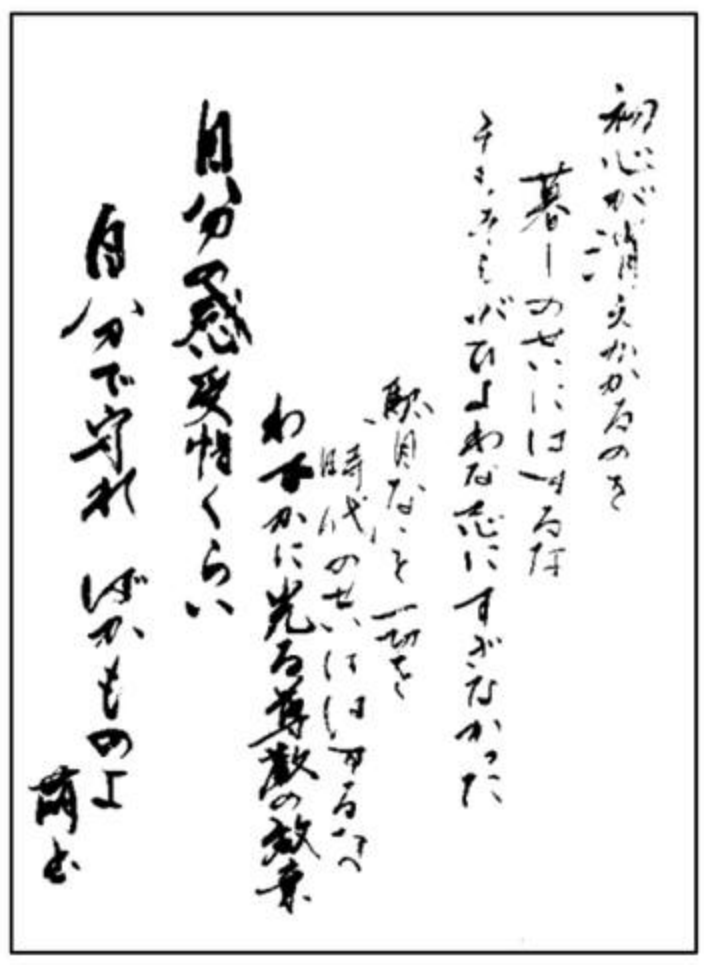
83

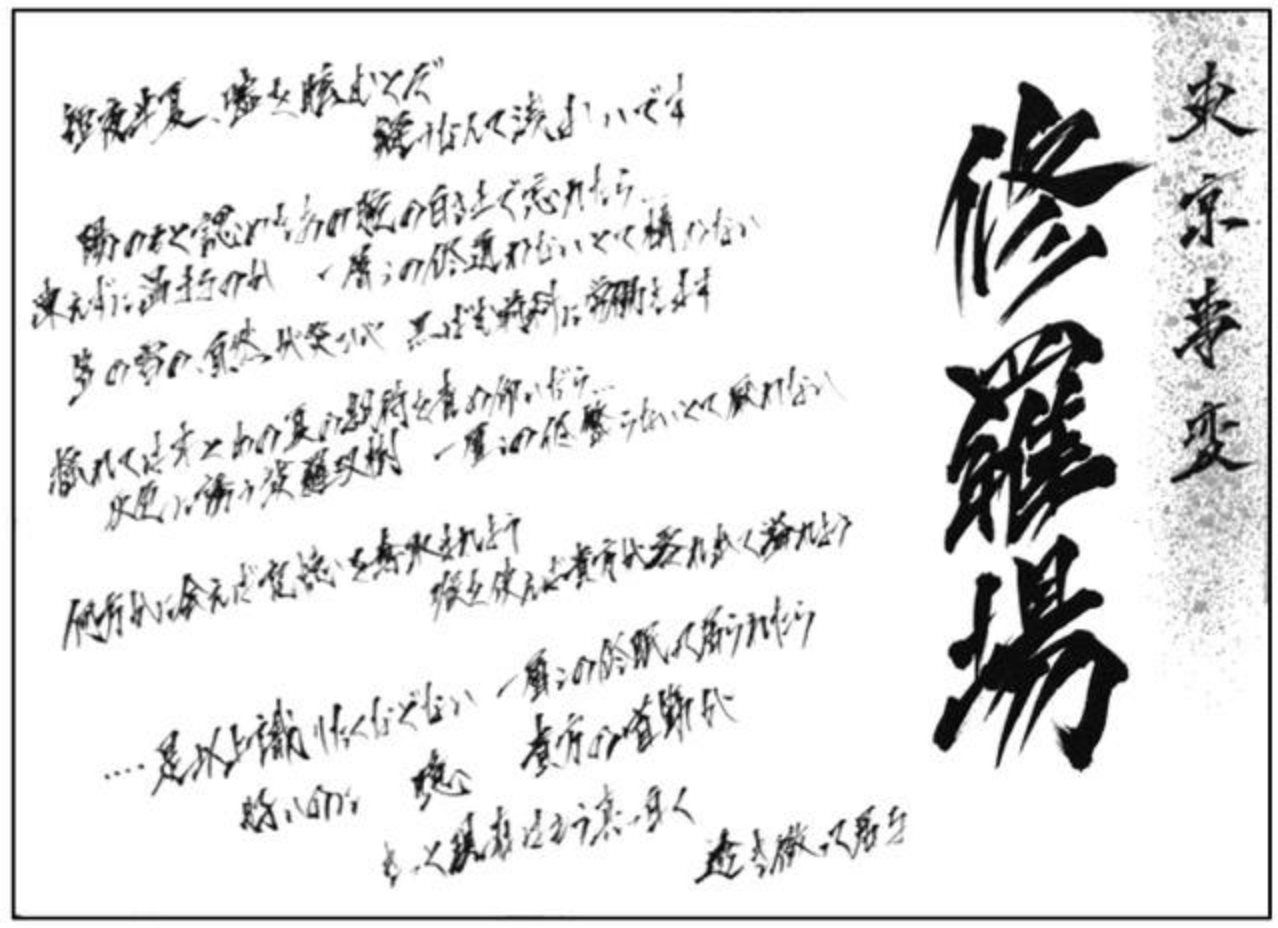
山口萌　修士二回生
創作　調和体　『自分の感受性くらい』　半切三分の一

「ぱさぱさに乾いてゆく心を人のせいにはするな　みずから水やりをおこたっておいて…」

茨木のり子さんの詩を書きました。就活のなかでいろんな人に出会い、私という人間について掘り下げていくなかで、自分の軸が揺らいでいるときにこの詩に出会いました。誰のための就活なのかを思い出させられました。今は王道を行かないと決めた自分を誇らしく思っています。特に最後の一文がお気に入りです笑







84

山本大翔　修士一回生
創作　調和体　『修羅場』　色紙

「短夜半夏、嘘を眩むとぞ　疑うなんて浅ましいです…」

群青日和に続き東京事変の修羅場を書いてみました。周囲には凛と振る舞う。でも裏では修羅場。そういったイメージでこの曲を聴きつつ書きました。パンフレット作品は練習一発目のものなので、是非会場の出来上がった作品を見ていってください。



85

上西隆太・藏岡凌平　三回生
創作　行草　孟子『離婁』より　半切四分の三　二連

「道在爾而求諸遠　事在易而求諸難」

「人の行うべき道は普段の生活の中にあるのに、かえって深遠なところに求めようとする。物事の本質はごく当たり前の事柄の中にあるのに、かえって難しく考えようとする。」という孟子の言葉です。対聯の合作をしようと思い立ち、対になっている句を選びましたが、まさかこんな深い言葉だったとは…

＊部員紹介＊

顧問 京都大学大学院 人間・環境学研究科 阿辻 哲次教授
技術顧問 日展会友 書道家 寺本 蒼玄先生

一回生

工　阿部朱夏
工　井上誠也
医　今村朱里
法　上村香鈴
総人　内山拓喜
医　浦川真由子
工　江里口拓哉
法　小野日菜乃
工　郡健一郎
経済　小﨑美結
法　米田景
農　小林由佳
教育　小栁亜季
工　近藤泰仁
農　阪井田有紗
文　佐武千寛
文　清水隆史
農　杉本舞
工　角裕介
理　善野和人
文　橘大輝
法　徳田寛生
文　仲村康太郎
文　中村直樹
工　橋詰都
工　原田拓実
理　原誠人
同志　平野晶子
法　前山隼人
農　松尾和輝
工　松田萌
工　間宮基貴
農　山中希恵

二回生

造形　大池ららる
医　岡本晴香
工　奥田祐司
経済　笠原知生
法　川口功
府医　木高早紀
農　木下有羽
法　清水麻友美
医　下坂桃代
工　高井さつき
薬　竹内春佳
医　立田俊也
工　趙詩園
総人　深谷拓未
農　堀場菜摘
造形　眞嶋優一
法　三村祐貴子
工　宮部大志
工　矢野凱己
工　山口和樹
農　山崎夏野
工　山科直也
工　渡辺顕

三回生

農　新井一矢
薬　荒巻拓哉
工　石川敬一
理　上西隆太
工　牛山泰喜
工　上井晴仁
工　閻姝恒
工　角谷遊野
農　釜阪紘平
工　藏岡凌平

文　篠原理那
光華　島津七明
工　白谷暢浩
工　宗哲仁
文　瀧川光美
理　武田桃子
法　徳川鈴奈
文　中村友美
教育　硲健太
理　疋田研一郎
法　寶官紗紀
農　松下有菜
法　山﨑絢香
医　山下燎亮
総人　山脇謙
文　吉村友希

四回生

工　飯岡達也
農　稲葉由花利
理　上村耕平
工　王隽斉
法　大石龍太
工　岡本悠
農　片野裕太
工　河合翼
法　北堀雄大
法　小島健史
工　石博昭
農　中谷百花
法　中野綾香
工　藤田雄也
農　松澤祐実
文　宮下拓也
農　家倉凌

五回生

総人　平野泰隆

修士一回生

理　伊東優治
文　王薈媛
法　大泉陽輔
医　川上澄香
工　小松聡子
工　鈴木貴也
人環　陳巧香
農　寺西幸
工　藤井結稀
工　山本大翔
薬　渡辺健介

修士二回生

工　大庭諒介
工　奥山優
工　小野愛実
農　鈴木新人
工　時藤大典
工　トルマチョブ・アルセーニ
医　山口萌

修士三回生

農　尾崎由布子
工　永溝聡士

博士課程修了

地環　藤井基弘

留学生

Irmak Saygin

掛軸 文房四宝 和紙の店 書楽

〒605-0012 京都市東山区東山三条東入南側
TEL.075-762-2330／FAX.075-751-6571
syoraku@aioros.ocn.ne.jp
〈日曜・祝日定休〉

Calligraphic Item Specialty Store 書遊 検索
篆刻用品・書道用品・額・軸装はお任せください。
書遊
http://www.syoyu-e.com/
AM.10:00－PM.6:00

奈良本店 駐車場完備
奈良市今辻子町37
TEL0742-23-5547
FAX0742-20-2261

大阪店 駐車場あり
大阪市福島区福島5-14-6クレセントビル2F
TEL06-6458-8808
FAX06-6456-4077

東錦店
京都市中京区高倉通三条下る丸屋町164
TEL075-251-7800
FAX075-251-7802

新潟営業所
TEL 025-374-5510
FAX 025-374-5511

姉妹店 札幌アメミヤ
札幌市中央区南一条西2丁目5南一条ビル5F
TEL011-398-9400
FAX011-398-9401

筆・墨・硯・書画用紙・色紙短冊・日本画用具
株式会社 松楳園
〒600-8075 京都市下京区柳馬場通仏光寺下ル
TEL（075）351－6380(代)
FAX（075）361－8006
http://www.shoubaien.co.jp.

香/筆/和風文具/香道具/茶道具
鳩居堂
〒604-8091 京都市中京区寺町姉小路上ル下本能寺前町520
営業時間 10～18時 定休日(日曜日)
TEL. 075(231)0510 FAX. 075(221)5987
地下鉄東西線市役所前駅下車5番出口
http://www.kyukyodo.co.jp

京筆・京文房
龍虫堂
京都 〒604-0916 京都市中京区寺町通二条上ル
TEL.075-252-4120 FAX.075-252-0006
東京 〒102-0072 東京都千代田区飯田橋四丁目六の二
東洋美術印刷本社ビル一階
TEL.03-3239-0733 FAX.03-3239-0731

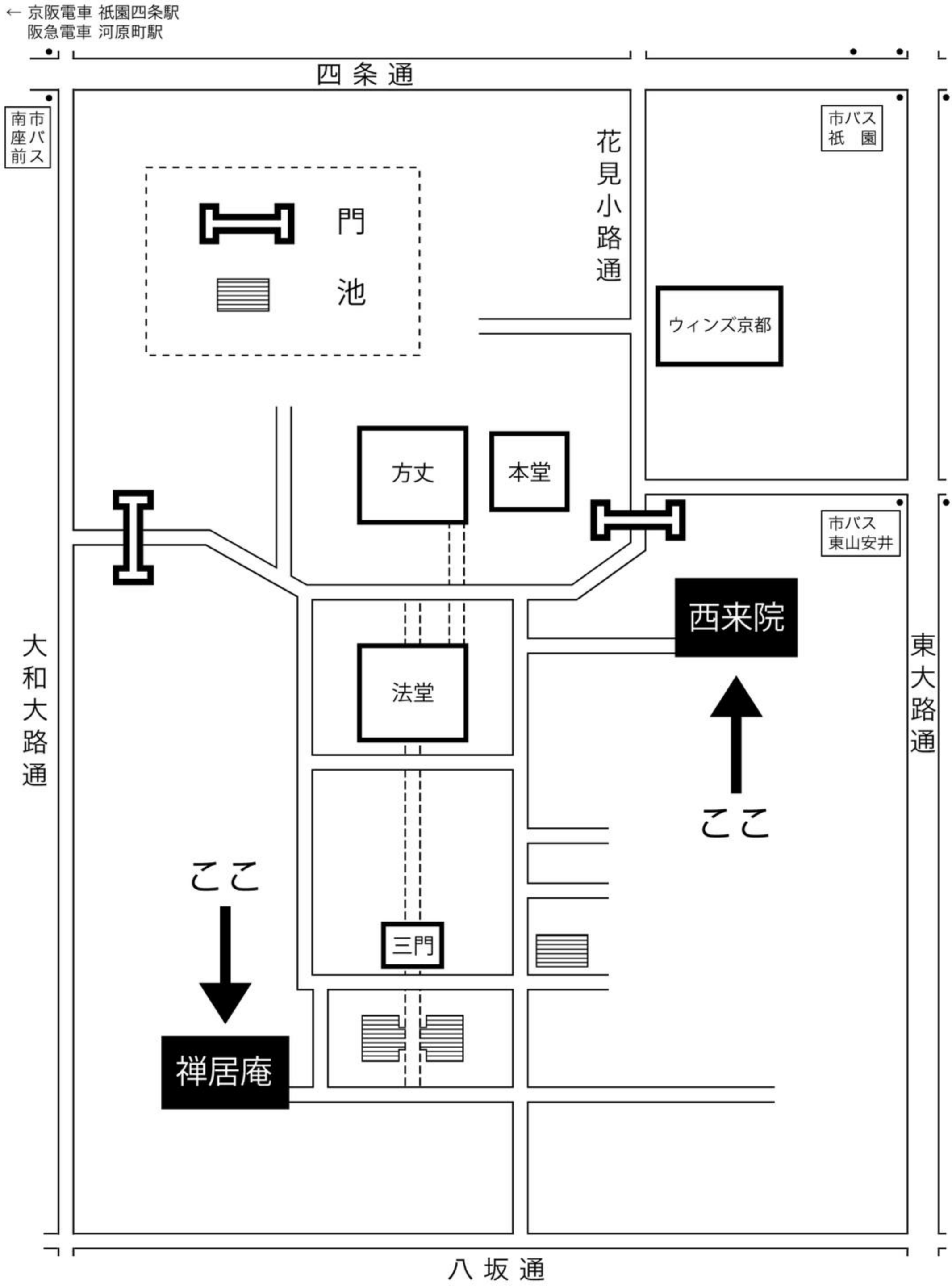
文具四寶（筆・墨・硯・紙）和紙工芸品 書画作品
書芸サロン 賛交
二条店 〒604-0931 京都市中京区二条通河原町西入北側
TEL・FAX：075-222-0390
E-mail：info@shoga-sankou.co.jp
株式会社 賛交社 本社 〒607-8216 京都市山科区勧修寺東出町27
TEL：075-572-8964／FAX：075-572-8905

かな料紙・京染和紙
加工紙・画仙紙・半紙他
書道用和紙の専門店
紙の津久間
京都市下京区新町通花屋町下ル
TEL（075）371－8186（代）
FAX（075）371－8189

□京都大学書道部□

〒606-8317
京都市左京区吉田本町
URL ：http://kshodobu.sakura.ne.jp/
E-mail：info@kshodobu.sakura.ne.jp
代表 ：矢野 凱己（工学部２回）

—建仁寺案内図・周辺地図—


← 京阪電車 祇園四条駅
阪急電車 河原町駅
四条通
南座前 市バス
花見小路通
市バス 祇園
門
池
ウィンズ京都
方丈
本堂
市バス 東山安井
西来院
ここ
法堂
三門
ここ
禅居庵
大和大路通
東大路通
八坂通



This book was
made by the LeME